

平成26年度

教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況の
点検・評価報告書

(平成25年度事業)



平成26年8月
桑名市教育委員会

目 次

頁

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
教育委員会の活動について・・・・・・・・・・・・・・・・	2
教育委員会委員（平成 26 年 3 月末時点）	2
教育委員会開催状況	2
教育委員会教育施設視察状況	5
教育委員会 その他の活動	5
平成 25 年度 施策評価シート・・・・・・・・・・・・・・・・	6
豊かな人間性を育む人づくり	
確かな学力の育成	7
豊かな心と健やかな体を育む教育	9
開かれた特色ある学校づくり	11
就学前教育の充実	13
安全で快適な教育環境の整備	15
青少年の社会参加・体験活動の促進	17
青少年育成活動の充実	19
青少年の非行防止・保護体制の充実	21
生涯学習を通しての自己実現	
生涯学習推進体制の整備	23
スポーツ活動の充実	25
スポーツ組織の育成と充実	27
個性豊かな文化の創造	
文化・芸術活動の推進	29
文化財の調査・保存	31
文化財の活用	33
人権が尊重されるまちづくりの推進	
人権・同和教育内容の充実	35
人権・同和教育推進体制の充実	37
事務事業一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39
総括意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56
個別の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56

はじめに

教育委員会制度は、合議制の教育委員会の決定に基づいて、教育長及び事務局が広範かつ専門的に教育行政事務を執行するものであることから、これが適切に執行されているかどうかについて、教育委員会自らがチェックする必要性がある。

このようなことから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ、点検・評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されている。

教育委員会では、桑名市総合計画における「こころ豊かな文化の薫るまちづくり—豊かな人間性を育む人づくり・生涯学習を通しての自己実現・個性豊かな文化の創造—」などの実現に向け、平成 25 年度教育委員会が実施した施策について自ら評価を行うとともに、出口 壽氏（暁学園理事）、高木 直人氏（名古屋学院大学商学部准教授）、小川 恵里氏（桑名市 P T A 連合会代表）の 3 名の方から、事務の課題や今後の改善方策等についてのご意見をいただいた。

なお、点検・評価については、これまで、中間評価を行ってきたが、中長期的な施策展開や P D C A のマネジメントサイクルの観点から、平成 25 年度より年度終了後の事後評価方式への切り替えをすることとした。



教育委員会の活動について

教育委員会委員（平成 26 年 3 月末時点）

委員長	大橋 昌宏
委員長職務代理者	水谷 康朗（平成 26 年 1 月 19 日まで） 山室 靖子（平成 26 年 1 月 20 日から）
委員	米田 真理
委員	松岡 守
教育長	伊藤 茂一

教育委員会開催状況

会議・開催日	審議事項・協議事項
4 月定例会 4 月 25 日（木）	《審議事項》 ・ 議案第 11 号 桑名市公共施設予約システムの利用に関する規則の一部改正について ・ 議案第 12 号 桑名市陽だまりの丘生涯学習交流センター条例施行規則の制定について ・ 議案第 13 号 桑名市陽だまりの丘生涯学習交流センター運営要綱の制定について 〈協議事項〉 ・ 補正予算について
5 月定例会 5 月 15 日（木）	〈協議事項〉 ・ 全国学力・学習状況調査について ・ 桑名市就学前施設再編実施計画（案）について ・ 子ども・子育て会議について
6 月定例会 6 月 6 日（木）	《審議事項》 ・ 議案第 14 号 桑名市立幼稚園保育料減免措置要綱の一部改正について ・ 議案第 15 号 桑名市私立幼稚園奨励費補助金交付要綱の一部改正について 〈協議事項〉 ・ 桑名市就学前施設再編実施計画（変更案）について
7 月定例会 7 月 4 日（木）	〈協議事項〉 ・ 幼稚園の再編等について ・ 適応教室（ふれあい教室）移転について
8 月定例会 8 月 1 日（木）	〈協議事項〉 ・ 桑名市子ども・子育て会議の委員について ・ 桑名市就学前施設再編に伴う具体的な対応について

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会平成 26 年度当初予算について
<p>9 月定例会 8 月 30 日（金）</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第 16 号 桑名市放課後子どもプラン運営委員会要綱の一部改正について <p>〈協議事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はだしのゲン」について ・各種補助金の削減について ・小学校再編について ・平成 25 年度全国学力学習状況調査結果の取扱いについて ・就学援助認定基準内規の一部改正について
<p>10 月定例会 10 月 9 日（水）</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第 17 号 桑名市指定天然記念物の指定について <p>〈協議事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における異物混入への対応について（基本的な考え方について） ・学区外通学・区域外就学許可基準の変更について ・学力調査の公表について
<p>11 月定例会 11 月 7 日（木）</p>	<p>〈協議事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区外通学・区域外就学許可基準の変更について ・土曜日授業について ・いじめ防止基本方針について
<p>臨時会 11 月 28 日（木）</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第 18 号 人事案件について
<p>12 月定例会 11 月 28 日（木）</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第 19 号 平成 26 年度人事異動方針等について <p>〈協議事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度全国学習学力調査の結果分析について ・土曜授業について
<p>1 月定例会 1 月 9 日（木）</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第 1 号 桑名市指定有形文化財の指定について ・議案第 2 号 桑名市教育委員会関係事業補助金等交付要綱の一部改正について <p>〈協議事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務の点検・評価について ・土曜授業について ・学校図書館の図書購入について ・学校の適正規模・適正配置について

<p>臨時会 1月20日（月）</p>	<p><協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑名市教育委員会委員長の選挙について ・桑名市教育委員会委員長職務代理者の指定について
<p>2月定例会 1月23日（木）</p>	<p><協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・くわなっ子育成方針作成について ・教育委員会事務の点検・評価について ・小・中学校卒業式告辞（案）について
<p>3月定例会 2月18日（火）</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第3号 桑名市生涯学習推進委員会設置規程の廃止について ・議案第4号 桑名市公民館条例施行規則等の一部改正について ・議案第5号 桑名市公民館運営要綱等の一部改正について ・議案第6号 桑名市子ども読書活動推進協議会設置要綱の一部改正について ・議案第7号 桑名市体育館規則等の一部改正について ・議案第8号 桑名市公共施設予約システムの利用に関する規則の一部改正について ・議案第9号 桑名市多度大社上げ馬神事馬具等整備補助金交付要綱の一部改正について ・議案第10号 桑名市石取祭車等整備補助金交付要綱の一部改正について ・議案第11号 桑名市教育集会所条例施行規則の一部改正について ・議案第12号 人事案件について <p><協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度くわなっ子育成方針について ・平成25年度小中学校卒業証書授与式・幼稚園修了証書授与式について
<p>臨時会 3月27日（木）</p>	<p>《審議事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議案第13号 桑名市教育委員会事務局内部組織規則の一部改正について ・議案第14号 桑名市教育委員会職務権限規程の一部改正について ・議案第15号 桑名市教育委員会文書管理規程の一部改正について ・議案第16号 桑名市スポーツ推進委員規則の一部改正について ・議案第17号 桑名市立小学校及び中学校の就学に関する規則の一部改正について ・議案第18号 桑名市学校給食センター条例施行規則の一部改正について ・議案第19号 桑名市教育委員会関係事業補助金等交付要綱の一部改正について ・議案第20号 桑名市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について ・議案第21号 桑名市教育研究所管理規則の一部改正について ・議案第22号 桑名市社会教育委員の会議規則の一部改正について ・議案第23号 桑名市公民館条例施行規則等の一部改正について ・議案第24号 桑名市公民館運営要綱及び桑名市長島ふれあい学習館運営要綱の一部改正について

	<ul style="list-style-type: none"> ・議案第 25 号 桑名市体育館規則等の一部改正について ・議案第 26 号 桑名市公共施設予約システムの利用に関する規則の一部改正について ・議案第 27 号 桑名市六華苑条例施行規則の一部改正について ・議案第 28 号 桑名の千羽鶴技術保持者選定委員会要綱の廃止について ・議案第 29 号 桑名市立学校職員安全衛生管理規程の制定について
--	--

定例会 12 回 臨時会 3 回

教育委員会教育施設視察状況

視察日	施設名	内容
平成 25 年 5 月 15 日 (木)	大山田東小学校 陽だまりの丘複合施設「ぽかぽか」	初任教員授業参観 建設中施設見学
平成 25 年 6 月 6 日 (木)	益世小学校	特別支援学級、1 年生授業参観
平成 25 年 7 月 4 日 (木)	多度北小学校	初任教員授業参観、通学路
平成 25 年 10 月 9 日 (水)	深谷小学校	授業参観
平成 25 年 11 月 7 日 (木)	城南小学校	芝生、屋上フェンス、飛散防止フィルム、初任教員授業参観
平成 25 年 11 月 28 日 (木)	大山田北小学校 星見ヶ丘小学校	わくわく子ども朝市 初任教員授業参観
平成 26 年 1 月 23 日 (木)	多度中小学校	初任教員授業参観

教育委員会 その他の活動

平成 25 年 5 月 15 日 (木)	市議会教育経済委員会 (教育委員会招聘)
平成 25 年 6 月 6 日 (木)	市長と教育委員会委員の懇談会
平成 25 年 11 月 7 日 (木)	人権・同和教育に関する学習会
平成 25 年 11 月 21 日 (木)	大阪市視察 (学校適正化)

平成 25 年度 施策評価シート

- ・ 確かな学力の育成
- ・ 豊かな心と健やかな体を育む教育
- ・ 開かれた特色ある学校づくり
- ・ 就学前教育の充実
- ・ 安全で快適な教育環境の整備
- ・ 青少年の社会参加・体験活動の促進
- ・ 青少年育成活動の充実
- ・ 青少年の非行防止・保護体制の充実
- ・ 生涯学習推進体制の整備
- ・ スポーツ活動の充実
- ・ スポーツ組織の育成と充実
- ・ 文化・芸術活動の推進
- ・ 文化財の調査・保存
- ・ 文化財の活用
- ・ 人権・同和教育内容の充実
- ・ 人権・同和教育推進体制の充実

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

学校教育課・指導課

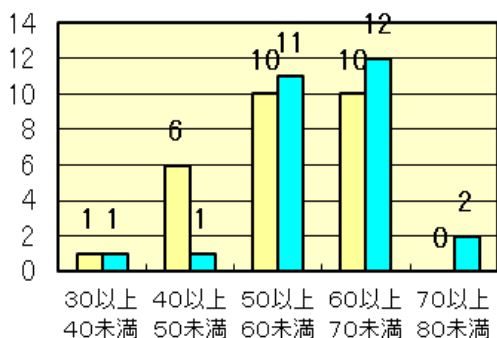
1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	学校教育
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育む教育活動が行われています。 ・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。 ・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。
基本事業	確かな学力の育成

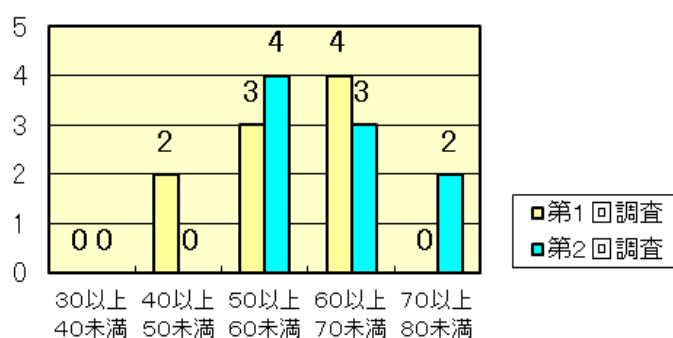
2 施策の現状

施策の現状	<p>個に応じたきめ細かな指導が可能となるように人的配置を行い、少人数指導等ができる環境づくりを進めている。</p> <p>また、教員が児童生徒と向き合い、その実態や思いを把握することを大切にした授業づくり、学級づくりを進めることにより、確かな学力の定着と向上が図れるよう、指導主事訪問等において学校を支援している。</p> <p>さらに、確かな学力の育成には、教員の力量アップが不可欠であることから、指導法や授業法の改善につながる各種研修会の実施や特別支援教育では児童一人ひとりの教育的ニーズに対応するための研修の充実に努めている。</p>
法令・制度の変更	平成 21 年度から幼稚園教育要領が、23 年度から小学校学習指導要領が、24 年度から中学校学習指導要領が完全実施された。
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>個に応じたきめ細かな指導ができるように、過密度の高い学級を有する学校などを中心に人的配置をしてきた。</p> <p>児童生徒の実態把握のために、「学級満足度調査」を年 2 回実施し、各学校で分析結果を共有しながら、授業づくりや学級経営の改善に活用するよう支援してきた。このことが、子どもの良さを伸ばす指導、学ぶ楽しさを感じられる学級・学校づくりの充実につながり、学ぶ意欲、学力の向上が図られている。</p> <p>教員研修においては、教員のキャリアステージに応じた研修や、今日的教育課題に応じた研修を実施してきた。とりわけ、特別支援教育については、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任等を対象にした研修会を開催するなど、特別支援教育推進校の指定とともに、教員の力量アップに努めてきた。</p>

(校) 満足群の割合別で見た学校分布 (小学校)



(校) 満足群の割合別で見た学校分布 (中学校)



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	全国学力調査における授業評価	算数、数学の授業が「分かる」と回答した児童生徒の割合	85.0	—	75.8	76.3	%
②	学級満足度調査	市全体の満足群に位置する児童生徒の割合	80.0	—	—	61.1	%
③	夏期教職員研修講座参加回数	夏期教職員研修講座における一人あたりの参加回数	1.5	1.3	1.2	1.3	回/人
④	特別支援教育講座の参加人数	夏期教員研修講座のうち特別支援教育講座への参加人数	100	154	137	129	人

指標の考え方

- ①算数・数学はつまずきやすく、積み上げの学習内容であることから、授業の分かりやすさを指標とした。
 ②学級生活の満足度が学習意欲の向上につながることから、満足群に位置する児童生徒の割合を指標とした。
 ③授業の分かりやすさは、教員の授業力・指導力に負うところが大きいことから、研修参加回数を指標とした。
 ④特別支援教育においても教員の力量が重要であることから、研修の参加人数を指標とした。

指標の分析

- ①国との比較においてH24、H25ともに数ポイント高い数値であるが、少人数授業の成果が表れているかどうかは分からない。②満足群に位置する児童生徒の割合は全国値に比べ高い。(全国値：38%)日頃の取組の成果と考える。③参加実績がほぼ横ばいではあるが、講座後のアンケートで「役に立った」と答える割合が毎年95%以上を保っていることから、夏の研修講座の充実度がうかがえる。④特別支援教育においては、一定の理解が得られるようになったことから、参加者の減少が見られるようになった。他の講座の参加人数に比べ参加人数が多いことから、今後も特別支援教育講座を継続していかなければならない。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>個に応じたきめ細かな指導のための人的配置により、学習のつまずきへの速やかな対応や児童生徒の学習意欲の向上につなげることができたが、より成果を上げるために配置された教員と学級担任との連携をさらに充実させる必要がある。</p> <p>学級満足度調査の結果分析により子どもの状況が明確になり、適切な指導や支援を行う中で学習意欲の向上につなげることができた。特に成果の上がった実践を校内及び市全体で共有することが必要である。</p> <p>夏期教職員研修講座は希望制をとっているが、講座によっては参加人数に偏りがある。</p>
今後の展開	<p>国、県の施策を踏まえながら、引き続き、個に応じたきめ細かな指導のための人的配置を行うとともに、配置された教員と学級担任との連携がより丁寧に行われていくよう研究していく。</p> <p>学級満足度調査を引き続き全市的に実施するとともに、分析方法の統一化と、分析結果に基づく指導方法の研修研究を実施していく。</p> <p>教員研修においては、今後とも今日的教育課題や教員のニーズを把握して、教員に必要な研修を実施していく。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

学校教育課・指導課

1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	学校教育
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育む教育活動が行われています。 ・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。 ・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。
基本事業	豊かな心と健やかな体を育む教育

2 施策の現状

施策の現状	<p>各学校では道徳教育や体験活動などの充実を図り、豊かな人間性の育成に努めている。また、子どもたちの学校生活の状況を常に把握し、子どもたち同士のつながりや居場所のある環境を整え、心身ともに健康な生活を営む態度を育てている。</p> <p>教育相談については、県事業によるスクールカウンセラーの配置だけでなく、市独自に、不安や悩みを抱える子どもや保護者に向けた、臨床心理士などによる相談体制を整えるとともに、小学校には心の教室相談員を配置している。</p> <p>また、食育基本法の制定に基づき、各学校・園の食育が充実するよう支援、取組を進めている。</p>
法令・制度の変更	平成 21 年度から幼稚園教育要領が、23 年度から小学校学習指導要領が、24 年度から中学校学習指導要領が完全実施された。
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>道徳教育の推進については、人権教育の推進とも連携を持たせながら、指導主事の訪問等を中心に、各校・園への指導、支援を充実させている。</p> <p>教育相談においては、認定臨床心理療法士、認定臨床心理カウンセラーによる相談枠を設けるなど、相談内容の多様化に対応している。小学校では、子どもの不安や悩みの多様化・深刻化から、平成 25 年度に心の教室相談の相談時間数の拡充を図った。</p> <p>子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、各学校において栄養教諭を中心に食育の充実にも努めるとともに、学習活動の中で、地元生産者等の招聘や生産現場の見学等を行ってきた。また、学校における食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、地場産物・郷土の食材の提供を進めたほか、教職員の食育指導の力量向上のために、研修講座を開催してきた。</p>



【心の教室相談室】

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	教育相談の利用	開設した相談時間のうち、実際に利用した相談時間の割合	80.0	66.9	78.0	64.8	%
②	心の教室相談員の活用	1校あたりの年間相談件数	150	129	134	106	件
③	食育研修講座への参加	食育研修講座の参加人数	72	57	81	84	人

指標の考え方

- ①教育相談が充実すれば、開設時間に対する実際に相談に応じた時間の割合が高まると考え、指標とした。いつでも相談を受けられる環境を用意するために、概ね80%台で推移させたい。
- ②心の教室相談員の活用の充実は、年間相談件数に表れると考え、指標とした。
- ③食育の推進には、教員の食育に関する指導力に負うところが大きいことから、教職員の食育指導向上のための研修講座の参加人数を指標とした。

指標の分析

- ①②スクールカウンセラーの小学校への配置が大幅に増えたことから、教育相談利用率や小学校の心の教室相談員の相談件数が下がったと考えられる。
- ③食育講座への参加は、各学校から2名程度（72名）の参加があることが望ましいと考える。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>核家族化が進み、地域の教育力が低下している中、人間関係の希薄さは子ども同士の関係においても同様である。このような状況であるため、相談内容が多様化している。各学校では、まずは相談しやすい心の教室相談員や教育相談担当者が相談の窓口となっており、多様化された相談に対して、相談場所の切り分けについての力量が求められている。</p> <p>地元生産者等招聘の事業においては、協力者確保の面で学校の要請に十分応えられない状況がある。食育の学習については、まだまだ、栄養教諭頼りの傾向が強い。</p>
今後の展開	<p>教育相談の多様化については、内容に応じて相談窓口の調整や関係機関との連携を図っていく。</p> <p>スクールカウンセラーや心の教室相談員等の活用を図るように教育相談担当者の研修を充実させるとともに、心の教室相談員の力量を高める研修を実施する。</p> <p>食育の推進については、地元生産者における協力者の発掘を進めるとともに、教員全体の指導力向上を図る。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

学校教育課・指導課

1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	学校教育
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育む教育活動が行われています。 ・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。 ・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。
基本事業	開かれた特色ある学校づくり

2 施策の現状

施策の現状	<p>保護者や地域住民の方々に「スクールサポーター」として登録いただき、子どもたちの見守りをはじめ、教育活動における地域の特徴を活かした様々な支援をいただいている。</p> <p>民生委員や自治会連合会役員などの地域の方々に各学校・園の「学校評議員」となってもらい、学校・園運営についてのご意見をうかがっている。</p> <p>学校自己評価の客観性・透明性を高めるために保護者や「学校評議員」などによる学校関係者評価を実施している。</p> <p>「特色ある学校・園づくり」を推進するための事業費については、各学校・園毎に事業実績及び事業計画に基づき、予算を決定し業務委託している。</p>
法令・制度の変更	平成 21 年度から幼稚園教育要領が、23 年度から小学校学習指導要領が、24 年度から中学校学習指導要領が完全実施された。
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>スクールサポーターには、地域の産業や伝統文化など地域毎の特色にあわせて各学校・園における教育活動で活躍していただいている。</p> <p>学校評議員については、全体研修会を設けて見識を広めていただいている。また、各学校では、学校評議員会において今日的な教育課題や学校の課題等について意見をいただいている。</p> <p>また、「特色ある学校・園づくり」では、継続した伝統的な取組や、子どもの実態をふまえた新たな取組を実施するなど、それぞれに特色ある取組が行われている。</p>



【多度東小】 多度豆づくりと梅ちぎり

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	スクールサポーター登録者	桑名市全体のスクールサポーター登録人数	1,000	961	928	940	人
②	学校評議員からの意見聴取回数	桑名市全体の学校評議員会のべ開催件数	120	—	138	113	回

指標の考え方

- ①地域に開かれた特色ある学校・園であるか否かは、学校・園の教育実践に地域の方がどれだけ多く関わっていただいているかによる。
- ②学校・園が進むべき方向性について地域の願いや思いをどれだけ受け止めているかは、地域の方々の意見をいかに多くうかがっているかによる。

指標の分析

- ①スクールサポーターの登録数は、ほぼ同数で推移しており、定着してきたと考えられる。
- ②学校評議員会の開催件数は、各校・園で年間3回程度（市全体で120回）開催されており、概ね計画どおりとなっている。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>地域の中で生きる活力ある学校・園を目指すためには、今後もスクールサポーターをはじめ、地域の方々から様々な形で学校・園教育の支援をいただく必要がある。</p> <p>子どもたちに経験させたい内容やその支援方法について、スクールサポーターの思いや考えと、学校のニーズが必ずしも一致しないことがある。</p>
今後の展開	<p>「地域社会全体で子どもを育てる」という意識をさらに高めるため、スクールサポーター活動を継続させ、地域の産業や文化に関わる多様な教育活動を推進する。</p> <p>今後も学校評議員をはじめ、保護者や地域の方々から意見をうかがい、学校改善に活かしていく。</p> <p>地域や保護者が、子どもたちに対してどのような願いをもっているかをよりの確に捉える方法や、学校が地域にどのような支援を求めているか適切に発信する方法について研究していく。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

学校・園再編推進室

1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	学校教育
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育む教育活動が行われています。 ・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。 ・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。
基本事業	就学前教育の充実

2 施策の現状

施策の現状	<p>公立・私立、幼稚園・保育園・保育所の枠を超えた研修や実践交流を通して、幼稚園教諭や保育士が、教育・保育のあり方について見識を深めている。加えて、公立幼稚園の再編、公立私立の共存などの課題に取り組みながら、本市就学前教育のキャッチフレーズである「みんながつながり愛、一人ひとりの根っこを育てます」を目指し、就学前教育の充実に向けた取組を進めている。</p>
法令・制度の変更	平成 25 年 6 月 桑名市就学前施設再編実施計画策定
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>私立幼稚園・保育園、公立幼稚園・保育所の、教諭、保育士を対象とした「乳幼児教育推進協議会研修会」を実施し、教育・保育を取り巻く今日的教育課題について、年 5 回の研修講座（教育講演会・実技講習会・公開保育）のほか、先進的な取組を行っている園・所等の研修視察、実際の保育の様子を参観して研修を行う実践交流会を開催している。</p> <p>公立幼稚園の再編では、子どもたちの社会性を育むための望ましい集団規模の確保を目指し、幼保一元化や就学前施設の適正配置を内容とした「桑名市就学前施設再編実施計画」を策定した。本計画を広く市民の皆様にご理解いただくため、地域別、園別説明会を開催し、計 34 回の説明会で約 630 名の保護者・地域の皆様にご参加をいただいた。</p>

【実技講習会】

「パネルシアターの作り方と演じ方」の様子



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	乳幼児教育推進協議会研修会への参加	研修講座・実践交流研修会・研修視察への参加人数	420	315	392	359	人
指標の考え方							
<p>就学前教育に携わる幼稚園教諭や保育士等が、互いに情報を交換したり共有したりするなどの、研修・交流の機会を増やすことが、保育者の資質を向上させ、就学前教育の充実につながっていくことから「乳幼児教育推進協議会研修会への参加」を指標とした。</p>							
指標の分析							
<p>「乳幼児教育推進協議会研修会への参加者数」は、昨年より減少した。参加者の減少の要因の1つとしては、対象が公私立の幼稚園、保育園、保育所という勤務形態の違う職員が対象であり、それぞれに園行事等もある中で、多くの参加者が見込める日程を組むことが難しかったということがあげられる。</p>							

4 今後の方向性

課題の整理	<p>研修会の参加者数については、年によって参加者数が増減することは、やむをえない部分もあると考えている。改善できる部分としては、講座の内容が現場の先生方のニーズに合った内容であったかどうかという点が考えられ、今後は、講座内容の見直しも必要である。</p> <p>公立幼稚園の再編については、説明会にて保護者から、送り迎え用駐車場等の施設整備に関する要望が多数寄せられており、再編実施に向け、園運営や教育内容等ソフト面での体制整備と併せて、ハード面の整備を進める必要がある。</p>
今後の展開	<p>【研修会の開催】</p> <p>桑名市の就学前教育の充実のため、今後も、引き続き研修会を進めていく。講座の内容等については、アンケートを実施するなどして、ニーズに沿った講座を計画し、参加意欲の増進と参加者の増加を目指す。</p> <p>【公立幼稚園の再編】</p> <p>計画実施に向け、具体的な内容について、継続して丁寧な説明に努める。また、再編園スタートに向けてソフト面、ハード面の整備を進める。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

教育総務課

1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	学校教育
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育む教育活動が行われています。 ・幼児・児童・生徒一人ひとりが、楽しく学校（園）生活を送っています。 ・学校を核として、地域社会全体で子どもたちを育てる環境になっています。
基本事業	安全で快適な教育環境の整備

2 施策の現状

施策の現状	<p>本市は、幼稚園 24 園、小学校 27 校（ほか分校 1 校）、中学校 9 校（ほか分校 1 校）の園・学校施設を有しており、面積では市全体の公共施設の 43%を占めている。</p> <p>これまで、校舎、屋内運動場等躯体部分の耐震化を計画的に進めてきたほか、門扉やフェンスの取付けやトイレ改修など、園・学校施設の安全性や快適性の確保に努めてきた。また、東日本大震災の災害を教訓として、校舎屋上を津波や浸水被害に対する一時避難所とする整備も進めている。</p> <p>一方で、こうした教育施設のうち約 27%（面積比）で建築後 40 年が経過しており、施設・設備の老朽化による維持補修件数が増加しているほか、それぞれの改修費も増大する状況にある。</p>
法令・制度の変更	
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>学校の門扉、周囲のフェンスの取付け及び改修について、平成 24 年度までに中学校対象校 8 校の施工を全て完了し、小学校対象校 27 校中、14 校の整備を行い、平成 25 年度は大山田南小学校を施工した。平成 21 年度から、老朽化対策として、国の学校施設環境改善交付金を活用し、トイレ全面改修を順次進めている。平成 24 年度から、地震・津波対策として、浸水が予想される沿岸部の小中学校から屋上へのフェンスの設置に着手。さらに長島地区の小学校においては屋外避難用非常階段の設置を進めている。また、校舎等の非構造部材の耐震化を進め、避難所となる屋内運動場へガラス飛散防止フィルムの施工を行っており、平成 25 年 8 月には日進小学校、城南小学校に、平成 26 年 3 月に長島北部小学校へ取付けを完了するとともに、多度中小学校の屋内運動場の天井崩落防止工事を施工し、天井材を撤去している。</p>

建築年別施設内訳(保有分)

(㎡)

	小学校	中学校	幼稚園	計
～S40年	5,913	6,529	713	13,155
～S50年	34,937	15,378	3,008	53,323
～S63年	55,653	25,933	4,959	86,545
～H10年	17,490	8,901	1,683	28,074
～H25年	7,663	5,386	588	13,637
	121,656	62,127	10,951	194,734

うち、建築後40年を経過したもの	小学校	中学校	幼稚園	計
	37,903	11,059	3,660	52,622

(27.0%)

注) 各校において増築部分もあるため面積 (㎡) で表示した。

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	門扉、周囲のフェンスの取付け	小学校門扉設置済校数 (全 27 校中)	21	13	14	15	校
②	老朽化対策・環境改善・トイレ改修	トイレ改修実施済校数 (全 37 校中)	30	20	22	24	校
③	地震・津波対策	屋内運動場ガラス飛散防止フィルム取付け校数(全 37 校中)	21	10	13	15	校

指標の考え方

市立幼、小、中学校の校舎、屋内運動場躯体の耐震化は完了していることから、侵入防止や防犯対策、地震・津波対策等の安全対策を実施した学校数を指標とした。

指標の分析

小学校門扉は、毎年 2 校設置し、15 校で実施、ガラス飛散防止フィルムの施工については、小・中学校で 20 校が実施済みである。トイレ改修も含め、計画的に実施している状況である。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>地震、津波対策を進めていくが、多くの学校が老朽化しており、給排水設備、消火・防火設備等、施設の根幹を成す部分の修繕が必要となっている。計画的な修繕に努めているが、施設全般に老朽化が激しくみられ対処療法的な対応を余儀なくされている。また、非構造部材（外壁、内壁、梁、照明器具等）の検査、対策が必要となっている。</p> <p>限られた財源の中で、優先順位を付け、計画的に進める必要がある。</p>
今後の展開	<p>門扉については、小学校のみとなったが、今後は、学校側からのニーズ等も検証しながら、必要に応じて進捗させていく。津波対策については、今後も継続して計画的に取り組んでいくが、対象校については、関係所管と協議しながら、慎重に選定する。校舎窓ガラスへのフィルム施工については、計画的に取り組みつつ、PTA活動等の協力を得ながら事業の進捗を図っていく。</p> <p>非構造部材の耐震化や老朽化対策については、多額の財政支出を伴う事業であるため、市の財政状況や今後まとめられる公共施設のマネジメント計画に沿って計画的に進めていく。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

生涯学習課

1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	青少年健全育成
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年が心身ともに健やかにたくましく成長しています。 ・ 青少年が個性を發揮し、積極的に社会活動に参加しています。
基本事業	青少年の社会参加・体験活動の促進

2 施策の現状

施策の現状	<p>人間関係の希薄化やモラルの低下など、青少年を取り巻く社会環境は、厳しさを増しており、青少年の自主性や積極性、判断力を育む取組を進めている。</p> <p>各地域の子ども会活動の中核的リーダーとなるよう、市内の中・高校生等を対象にした、市主催行事等のサポートや研修会・定例会（情報交換会）を行っている。</p>
法令・制度の変更	
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>ジュニアリーダー（中・高・大学生等）の中学生研修会をはじめ、市主催行事のサポーターとしての参加、定例会（情報交換会）など、年間 29 回の事業を開催した。</p> <p>しかし、参加者の多くを取り巻く状況は、放課後や休日の部活動、塾等で毎日忙しい生活を送っており、継続的にジュニアリーダークラブの定例会（情報交換会）への参加率も低迷している。</p>



【ジュニアリーダー】の活動の様子

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	ジュニアリーダー登録者総数	ジュニアリーダーに登録している者の総数	80	23	27	25	人
指標の考え方							
ジュニアリーダー養成のためという事業の主旨から、ジュニアリーダーに登録している者の人数を指標とした。							
指標の分析							
登録する青少年が増えておらず、目標数値を大きく下回っている。							

4 今後の方向性

課題の整理	<p>ジュニアリーダー等研修会の参加を募集しているが、参加者も少なく、ジュニアリーダーとして登録する者も年々減少しており縮小傾向にある。登録者はいるものの、研修会等参加者も少なく、クラブの自主運営が困難との結論が出され、平成26年3月に解散となった。</p> <p>子ども会活動の低迷とともに、子ども会指導者・育成者層の人材不足が深刻化しており、育成者の関わり方を踏まえ、本事業のあり方への再考が課題となっている。</p>
今後の展開	<p>事業を取り巻く環境が厳しい中、中学生・高校生が子ども会の指導者・育成者へと続くよう、青少年団体や子ども会などの関係団体と問題を解決する具体的な方策や支援する方策について、検討を進める。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

生涯学習課

1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	青少年健全育成
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年が心身ともに健やかにたくましく成長しています。 ・ 青少年が個性を發揮し、積極的に社会活動に参加しています。
基本事業	青少年育成活動の充実

2 施策の現状

施策の現状	<p>青少年を取り巻く環境と地域教育力の向上を図るため、青少年育成団体との連携や地域における指導者の育成のほか、関係団体等への活動支援や情報交換や研修会を進めている。</p> <p>昨今、子どもたちに関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の緊急課題に対し、社会全体による包括的な取組みとして、「放課後子ども教室」を実施し、子どもたちの安全で健やかな居場所づくりに取り組んでいる。</p>
法令・制度の変更	
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>青少年健全育成事業として、青少年育成市民会議や子ども会、放課後子ども教室などの事業を支援するとともに、関係団体との情報交換や研修会を年 30 回実施した。</p> <p>子ども会活動は、異年齢交流や地域での異世代交流等により、「子どもの社会性・協調性の醸成」や「保護者の情報交換の場となる」など一定の評価を得てきたが、昨今、加入率は減少傾向にある。</p> <p>また、社会全体による取組で進められている「放課後子ども教室」については、現在 7 小学校区で実施しているが、新規開設に向けて本事業の必要性や可能性について情報交換を進めている。</p>



【放課後子ども教室】の様子

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	市民会議主催事業の参加者数	市民会議主催事業の参加者数	20,200	20,000	20,100	20,200	人
②	子ども会加入率	加入児童等数／市内在住児童等数	—	14.0	10.0	9.0	%
③	放課後子ども教室実施小学校数	全27校中	10	7	7	7	校

指標の考え方

青少年育成活動への参加が事業の広がりを示す指標の考え方となることから、その代表的なものを指標とした。

指標の分析

- ①地域の積極的な参画があり、ほぼ平年並みの活動が行われている。
- ②少子化のほか、学習塾、スポーツクラブ等学校外活動の活発化から、年々加入者数は減少しており、加入率は減少傾向にある。
- ③実施校は増えていない。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>いじめ、不登校、ニート、少年犯罪の深刻化などに対応するため、青少年健全育成に関わる中心的組織である青少年育成市民会議をはじめ、子ども会や放課後子ども教室など関係団体の指導体制の充実が課題となっている。</p> <p>特に昨今、加入率の減少など、縮小傾向が続いており、子ども会活動のあり方を含めた多くの課題がある。</p> <p>また、放課後子ども教室については、コーディネーターやサポーター等の安全な活動のための人材確保が課題となっている。</p>
今後の展開	<p>地域における青少年育成指導体制の充実のため、関係団体等と連携を図りながら、啓発活動及び研修会等の支援を行い、青少年育成活動の充実を進める。</p> <p>子ども会育成者連絡協議会と協議・検討を行いながら、地域の支援、父親の協力、行事内容の改善、広報啓発など、各種課題に対する対応を進める。</p> <p>放課後子ども教室事業の円滑な実施のためには、学校や地域住民の協力が不可欠であり、コーディネーターの発掘やボランティア等の協力者の確保により、事業内容の充実や新規開設に向けた取組を進める。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

生涯学習課

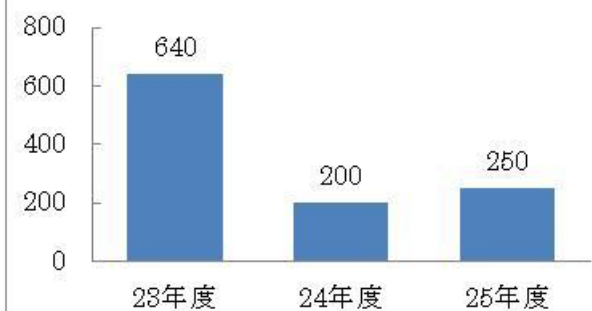
1 施策体系

項	豊かな人間性を育む人づくり
単位施策	青少年健全育成
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年が心身ともに健やかにたくましく成長しています。 ・青少年が個性を發揮し、積極的に社会活動に参加しています。
基本事業	青少年の非行防止・保護体制の充実

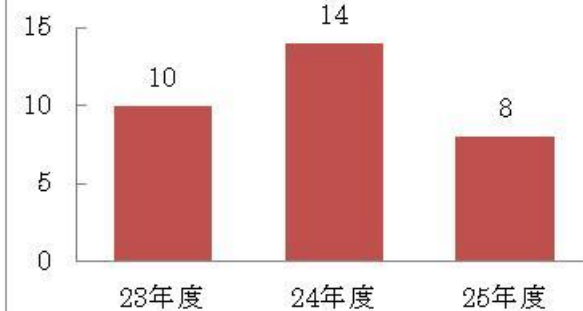
2 施策の現状

施策の現状	<p>青少年の非行・被害防止を図るため、教職員やPTA、その他各種団体に委嘱している補導委員及び職員が、桑名駅周辺や大型複合店舗、公園など、青少年の姿を多く見かける場所を巡回している。また、集中的に夏休み期間の特別補導をはじめ、不審者情報の寄せられた場所も注意して巡回を行っている。</p> <p>そのほか、青少年に影響を与える有害図書等の除去などの環境浄化のため、三重県青少年健全育成条例による立入調査員活動と連携して各店舗などの立入り調査を実施している。</p>
法令・制度の変更	
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>青少年の非行防止・保護体制の充実のため、学校、警察、子ども総合相談センターなど関係機関と連携しながら、街頭補導や各店舗の立入り調査など、街頭補導出動総員数 1,221 人で延べ 369 回の街頭補導を行った。</p> <p>また、犯罪から子どもを守る取組の一つとして、各小学校区ごとに実施母体を組織し、緊急時における子どもの避難所「子ども SOS」の家を 2,552 か所設置し、登下校時の安心・安全を確保した。</p> <p>これらの活動により、市民の間に青少年の非行防止や被害防止に対する関心が高まりつつあり、学校や地域等で情報共有や啓発にもつながっている。</p>

年間延べ街頭補導人数



年間延べ青少年相談件数



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	街頭補導実施回数	街頭補導回数	450	365	439	369	回
指標の考え方							
<p>青少年の非行防止・保護体制の量を示す主な活動を指標とした。</p>							
指標の分析							
<p>平成 24 年度は、重大事件の発生を受けて、重点的にパチンコ店や大型店舗の駐車場の巡回を行ったことから増加したが、平成 25 年度は例年並みの補導回数となった。</p>							

4 今後の方向性

課題の 整理	<p>街頭補導活動などの取組により、現在のところ特に青少年の際立った問題行動の事例は少なく、比較的落ち着いているものの、近隣市町で悲惨な事件も起きており、今後も引き続き、街頭啓発・街頭補導や環境浄化活動などの取組による非行防止・保護体制の充実が求められる。</p>
今後の 展開	<p>多くの市民が参加し、青少年の非行行動を未然に防ぐため、補導委員や関係機関等（学校・警察・事業所・地域）との連携を強化するとともに、実施場所や時間、回数、活動人数等を随時検証しながら、効果的な補導活動に取り組む。</p> <p>また、引き続き、犯罪から子どもを守る取組として、地域全体で子どもの登下校を見守れるよう「子ども SOS」の家の設置を進める。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

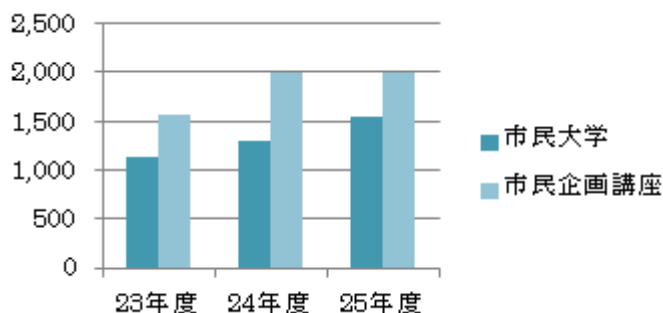
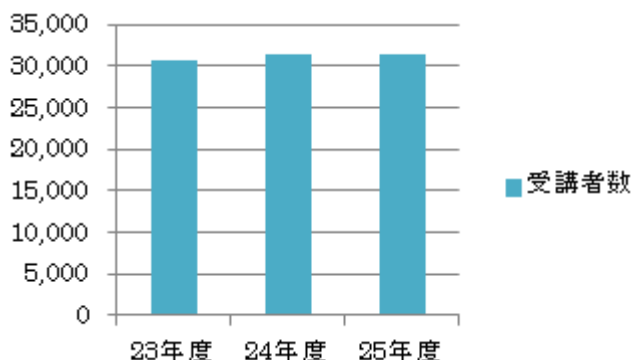
生涯学習課

1 施策体系

項	生涯学習を通しての自己実現
単位施策	生涯学習
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる環境が整っています。 ・生涯学習で得た知識や経験等の学習成果が、地域社会に還元されています。
基本事業	生涯学習推進体制の整備

2 施策の現状

施策の現状	<p>公民館では、定期的に各種講座・学級等を開設し、市民ニーズに応じた様々な学習機会を提供した。講座の内容は、趣味・教養だけでなく、市民大学講座や市民自らが企画提案した市民企画講座など現代的課題、社会的な課題に取り組み、地域の関心やニーズの高いテーマも取り入れ、事業の充実を推進した。</p> <p>桑名市立図書館では、3館それぞれが地域館としての特色を活かしながら、学校教育支援、子ども・子育て支援、高齢者・障害者支援、キャリアアップや情報提供など、乳児から高齢者にわたる幅広い年齢層に対し、様々な事業を企画し、多様化する市民ニーズに満足していただける図書館運営に取り組んだ。</p>
法令・制度の変更	平成 22 年 10 月 桑名市生涯学習推進計画を策定
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>公民館の各種講座・学級等では、106 講座・14 学級を開講するほか、「くわな市民大学」は 7 講座、「市民企画講座」を 6 講座開講し、いずれも期待どおりの参加者を得ることができ、参加者からも好評を得ている。また、講座生が自主的に行う第Ⅱ講座の開講やサークルへの移行など、学習成果を活かす仕組みづくりを進めている。</p> <p>図書館は、学校教育支援として見学や中高生の職場体験の受入れ、子ども・子育て支援として「ゆめはま文庫」の貸出しや子ども向けイベントの実施、高齢者・障害者支援として対面朗読等の実施、キャリアアップ・情報提供支援としてサテライトカレッジの実施や地域映像上映など様々な事業を実施し、子育て支援と交流の機会の提供、市民との協働の推進などを行い、図書館利用のきっかけづくりを推進している。</p>



【公民館: 講座受講者数の推移】

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	講座受講者数	市民大学、主講座・学級等の年間のべ受講者数	32,000	30,592	31,401	31,461	人
②	図書貸出冊数	3館（中央・長島・多度）の貸出冊数	1,300,000	1,275,597	1,230,340	1,214,244	冊

指標の考え方

- ①公民館が主催する講座等の受講者数の年毎の推移を考察。
- ②図書館の貸出冊数の年毎の推移を考察。

指標の分析

- ①前年並みの利用者数であり、ほぼ一定している。
- ②平成25年度の貸出冊数の減少（約16,000冊）は、多度ふるさと文学館が1か月間閉館（施設補修）していたためと思われる。正確な対比はできないが、ほぼ前年度並みの利用はあったと思われる。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>公民館の各種講座・学級の内容について、重複する講座・学級がみられるほか、人づくり・地域づくりの視点から現代的課題や生活課題への対応が不足しており、バランスのとれた学習に取り組めるよう多様な学習機会を提供することが課題となっている。また、市民の自主的な学習を支援するため、受講生の学習成果を活かす仕組みづくりや活躍できる場の提供が求められている。</p> <p>図書館は、生涯学習を支援する中核施設として、また地域の情報センターとして図書館運営・管理を行っている。しかし、ここ数年、入館者数や貸出冊数が伸び悩み傾向にあり、利用拡大を図るための魅力ある図書館運営が求められている。</p>
今後の展開	<p>公民館講座選定委員会で適切に講座の見直しや新規講座の十分な検討を行い、引き続き市民の学習ニーズを的確に把握しながら、多様な学習機会の提供に努める。また、学習効果を活かす仕組みづくりとして、市民大学等の参加者による教室運営、学習成果を発表できる機会や学習成果が活かされる取組を進める。</p> <p>図書館運営充実のため、家庭・地域・学校と協力しながら、より多くの市民の方にご利用いただけるよう、自主企画事業の充実、利用しやすい図書館システムの更新を行うなど、生涯学習活動の支援と地域に役立つ情報提供施設としての機能向上を進める。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

スポーツ振興課

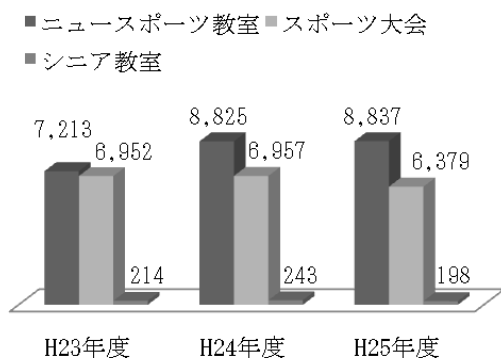
1 施策体系

項	生涯学習を通しての自己実現
単位施策	生涯スポーツ
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民がスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らしています。 ・種目別（競技）スポーツが盛んになっています。
基本事業	スポーツ活動の充実

2 施策の現状

施策の現状	<p>市民があらゆる地域でいつでもスポーツ活動が行えるよう、市が委嘱した「スポーツ推進委員」によるニュースポーツ教室を開設するとともに、市民が実施するスポーツ大会の運営指導や審判の派遣等を行っている。</p> <p>その他、市民の健康体力づくりへのニーズに応じて、老若男女問わず生涯にわたるスポーツライフの実現に向けた事業を推進している。</p>
法令・制度の変更	スポーツ振興基本計画（文部科学省）
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>「スポーツ推進委員」は、ニュースポーツ教室を開催する他、自ら企画したイベントを実施。また、広報等を利用し、スポーツ推進委員を市民に周知できるよう努めている。</p> <p>市が主催する市民体育大会を8月から翌年2月の期間に開催し、多くの市民に参加をいただいている。また、3県3市によるボート競技事業「木曽三川交流レガッタ」を毎年2回海津市で開催している。</p> <p>高齢者の人口増加に伴い、シニア向けのスポーツを普及させるため、「グラウンド・ゴルフ」「ゲートボール」「卓球」の3種目を50歳以上の初心者を対象に教室を開催している。</p>

【スポーツ事業参加者数】



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	ニュースポーツ教室参加者数	スポーツ推進委員が開催する教室の参加者数	7,100	7,213	8,825	8,837	人
②	スポーツ大会参加者数	市が主催するスポーツ大会の参加者数	7,000	6,952	6,957	6,379	人
③	シニアスポーツ教室参加者数	高齢者向けスポーツ教室の参加者数	240	214	243	198	人

指標の考え方

- ①スポーツ推進委員が市内各地域で活動しており、競技種目や指導方法はそれぞれ推進委員が主導で行っているため、教室の参加者数は推進委員の活動指数ともいえる。
- ②③スポーツ大会及びシニアスポーツ教室の参加者数については、市が実施するスポーツ事業が市民へどれだけ浸透しているかが分かる。

指標の分析

それぞれ参加者数については、大きな変動はないことから、主に特定の方が継続し参加されていることがわかる。新規の参加が見込める取組が必要である。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>ニュースポーツ教室においては、参加者数の増加から利用施設が不足している。</p> <p>スポーツ推進委員の市民への認知度が低く、市民のスポーツ活動やイベントに十分に活かされていない。</p> <p>市が主催するスポーツ大会や教室の種目に変化がない。また、ゲートボール競技は全国的に人気は低下し、市内の愛好家も高齢化により減少しており、継続が厳しい。</p>
今後の展開	<p>ニュースポーツ教室の種目や、実施時間を見直すなど効率化を図り、施設を有効に利用させる。</p> <p>引き続きスポーツ推進委員の協力のもと、地域スポーツの普及に努めるとともに、就学前の子どもや高齢者にも参加できるニュースポーツの利点を活かした新たな種目に取り組む。</p> <p>市民のニーズに即したスポーツ大会や教室の把握に努めるとともに、限られた予算で新規に事業を実施していくため、関係団体やボランティアとの協働事業を展開していく。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

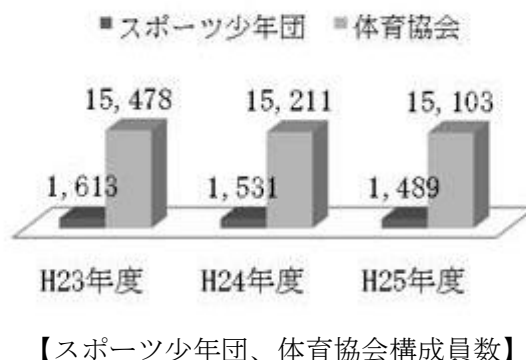
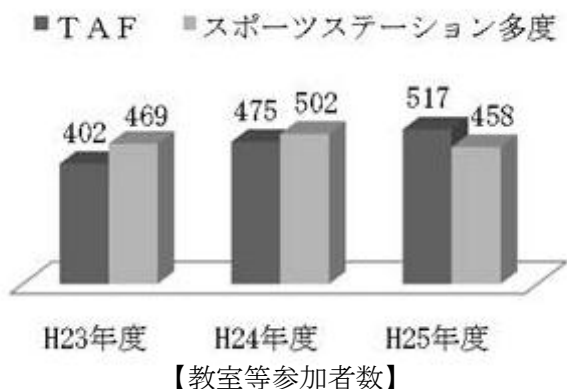
スポーツ振興課

1 施策体系

項	生涯学習を通しての自己実現
単位施策	生涯スポーツ
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民がスポーツに親しみ、心身ともに健康に暮らしています。 ・種目別（競技）スポーツが盛んになっています。
基本事業	スポーツ組織の育成と充実

2 施策の現状

施策の現状	<p>総合型地域スポーツクラブは、地域の住民が主体となり、それぞれのライフスタイルや趣向に合わせて「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツ・文化活動を楽しめる環境を提供している。</p> <p>本市では、平成 22 年 1 月に「TAF スポミンクラブ」が、平成 23 年 2 月に「スポーツステーション多度」が設立され、自立運営に向けた様々な取組が進められている。</p> <p>体育協会及びスポーツ少年団では、スポーツ競技を通じて青少年たちの健全育成を図り、アマチュアスポーツの普及及び競技力の向上を目的として活動を行っている。</p>
法令・制度の変更	スポーツ振興基本計画（文部科学省）
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>総合型地域スポーツクラブの運営にあたっては、体育協会やスポーツ推進委員などの既存団体に講師派遣を依頼するなど調整を図り、健康体操やミニバスケットボールなどのスポーツ教室、絵画や和太鼓などの文化教室、卓球交流会や立地を活かした街中ウォーキング等のイベントを開催し、地域の方の交流や青少年の健全育成の場として、文化・スポーツ両面から地域社会の活性化に貢献している。なお、「TAF スポミンクラブ」については、平成 26 年 4 月から自立運営を行う。</p> <p>体育協会とスポーツ少年団については、支部制を廃止して組織体制の強化を図ってきており、競技団体向けに指導者講習会を開催し、スポーツ少年団の指導者が多数参加され好評を得ている。</p>



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	総合型地域スポーツクラブ数	活動している総合型地域スポーツクラブの数	5	2	2	2	団体
②	スポーツ少年団の団員数	市スポーツ少年団に加入している団員の合計人数	1,600	1,613	1,531	1,489	人
③	体育協会加盟団体の構成員数	市体育協会に加盟している各競技団体の合計人数	15,500	15,478	15,211	15,103	人

指標の考え方

- ①総合型地域スポーツクラブの数により、スポーツやレクリエーションを楽しめる環境も増え、市民がスポーツ等に取り組みやすくなる状態を明らかにできる。
- ②③体育協会及びスポーツ少年団に加入又は加盟する人数からは、スポーツ競技人口が把握でき、両団体の活動規模が理解しやすくなる。

指標の分析

総合型地域スポーツクラブが活動するためには、拠点となる活動場所と指導者が必要であるが、それらの確保が難しいことから団体数は3年間変わっていない状況である。

市民の少子化や高齢化による競技人口の減少は想定される範囲である。高齢者に向けた競技の普及が求められる。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>既存のスポーツクラブの中には、自主財源の安定的な確保など、自立した健全運営が課題となっているクラブもある。また、クラブが専用利用できる施設には制約があるため、小・中学校の学校開放等も利用して活動しているが、十分に活動場所を確保できていないのが現状である。</p> <p>今後、ジュニア世代のスポーツ環境の充実を図り、地域スポーツを支えるためにもスポーツ少年団や体育協会との連携が必要である。</p>
今後の展開	<p>総合型地域スポーツクラブに関する助言・指導を行う県の広域スポーツセンターと連携を図り、スポーツ指導者の育成や自立して継続的にクラブ運営ができるよう助言・支援を積極的に行う。</p> <p>また、スポーツ施設を利用する既存団体と、利用場所の空いている日時を聞き取るなどしてクラブとの共同利用について調整を図り、クラブの活動拠点となるスポーツ施設の確保に努める。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団の協力のもと、市民がより自発的にスポーツに参加できるような環境づくりに努めるとともに、競技力強化を図るための支援を行う。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

文化課

1 施策体系

項	個性豊かな文化の創造
単位施策	文化・芸術
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で気軽に文化・芸術に親しむ機会に恵まれ、心豊かな市民社会が形成されています。 ・市民の文化・芸術に対する関心が高まり、多くの市民が文化・芸術活動を実践しています。
基本事業	文化・芸術活動の推進

2 施策の現状

施策の現状	<p>市民の文化・芸術への意識の向上を図るため、文化・芸術活動の推進に努めている。</p> <p>「市民芸術文化祭」は、市文化協会に委託し、文化団体の方々が自ら運営し、団体間の交流を行うとともに、広く市民に向けた文化や芸術に触れる様々な催しを開催している。また、市民の方の文化・芸術に対する関心を高め、活動を支援し、作品発表や観賞の機会を提供するため、学識経験者や専門家で構成する市民展運営委員会において協議していただき、「市民展」を開催している。</p> <p>子どもたちが主体的に取り組む活動や、歴史や文化に触れる機会として、子ども文化祭実行委員会に委託して、体験教室や展示などを行う「子ども文化祭」を開催している。</p>
法令・制度の変更	
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>「市民芸術文化祭」は市文化協会に委託し、例年 10 月から 3 月にかけて舞台発表や展示などを行う部門祭のほか、会員以外も参加する「ふれあい交流会」を開催している。</p> <p>教育委員会が主催する「市民展」は、日本画・洋画・美術工芸・書道・写真・陶芸の 6 部門ごとに、招待作品と無鑑査作品、一般作品展を開催しており、平成 25 年度で、60 回目の開催を迎えた。第 60 回市民展では招待作家作品と一般作品を一堂に介した展示を行ったことで、来場者から好評を得た。今後、出品者同士が刺激を受け、来年度以降も質の高い作品が出品されることで、見学者の増加も期待できる。</p> <p>「子ども文化祭」は、子どもが主体的に取り組むイベントとして、子ども会育成者連絡協議会や文化協会等で構成した実行委員会方式で開催をしている。</p>



【第 60 回桑名市民展】洋画部門審査員による講評の様子

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	市民芸術文化祭来場者数	桑名市文化協会の育成事業「市民芸術文化祭」の入場者数	7,400	7,901	7,095	7,178	人
②	市民展出展数	6部門で構成される「市民展」への「一般の部」出品数	200	177	201	199	点
③	子ども文化祭来場者数	子ども対象のイベント「子ども文化祭」の入場者数	4,370	5,146	3,965	3,966	人
④	文化事業への参加者数	市文化課事業他	19,400	24,373	17,869	15,985	人

指標の考え方

①平成 25 年度で 22 回目を迎えた「桑名市民芸術文化祭」は、各種の文化活動を通じ、市民の文化活動並びに振興に寄与しており、入場者数を指標に設定した。②60 回を迎えた「桑名市民展」は、出展する方も観賞する方も含め、市民の芸術文化に対する意識を高めることから出品数を指標に設定した。

③④18 回目を迎えた「子ども文化祭」は子どもが主体的に取り組む活動の場として、また、地域で受け継がれてきた歴史や文化に触れることで、次世代の担い手を育成することを目的に開催しており、入場者数を指標に設定した。

指標の分析

桑名市民展の出品数は部門ごとの増減はあるものの、全体として平成 25 年度の実績は前年度並であった。「桑名市民芸術文化祭」入場者数は、平成 24 年度から微増となっている。「子ども文化祭」についても同様の傾向である。今後も、開催内容を工夫し、入場者の増加を図っていく必要があると考えている。

4 今後の方向性

課題の整理	うるおいある市民生活や個性豊かな地域社会を創造するため、文化・芸術活動を継続的に推進していくことが課題となっている。世代間交流が減っている中、子どもたちに、次世代の担い手として様々な経験ができる場所を提供していくためにも、催し物の内容に磨きをかける必要がある。
今後の展開	現在、取り組んでいるいずれの事業も、市民の更なる芸術文化に対する意識を高めることや、親しむ機会としても重要であり、引き続き内容の充実と広報活動に力を入れる。 学校のクラブ活動等、学生を含め若手の出品を働きかける。また生涯学習の一環として、高齢者やサークル、講座で活動している個人へも出品を促す。

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

文化課

1 施策体系

項	個性豊かな文化の創造
単位施策	文化財
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の貴重な歴史遺産である文化財の保護を通じて地域の一体感が深まっています。 ・郷土の伝統や文化を大切にし、ふるさと桑名を愛する心が育まれています。 ・桑名に残る貴重な古文書類などの歴史資料が大切に保存されています。
基本事業	文化財の調査・保存

2 施策の現状

施策の現状	<p>本市が有する文化財を次の世代に自信と誇りを持って引き継ぐため、文化財の調査・保存に努めている。</p> <p>埋蔵文化財発掘調査事業は、文化財保護法に基づき、開発等が行われる際、事前の試掘・発掘調査を行っている。</p> <p>文化財保存事業では、公益財団法人諸戸財団所有の諸戸家住宅・諸戸氏庭園の保存修理（平成 20 年度～平成 31 年度予定）や石取祭の祭車の保存修理、文化財掲示板の修理及び文化財標識の設置等を計画的に行っている。</p> <p>また、市内で保有・保管されている文化財の調査も継続して行っている。</p>
法令・制度の変更	
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>埋蔵文化財発掘調査事業は、桑名城下町遺跡をはじめとする市内遺跡において発掘調査を実施し、出土品の整理や測量調査を行っている。</p> <p>文化財保存事業は、諸戸家住宅、諸戸氏庭園で構造物の部分解体や構造補強を進めていたほか、西船馬町の石取祭車の水引幕の復元新調、職人町の車輪と山形の保存修理を行うとともに、上野御膳水・桑名城跡などの文化財掲示板の修理 4 件及び寿量寺、赤須賀神社の石取祭の文化財表示板 2 件、桑名駅西口地区に標識を 2 件新設した。</p> <p>諸戸家住宅・諸戸氏庭園・石取祭の祭車の保存修理については、修理方法が複雑であるため、有識者、所有者、国、県、市のメンバーで保存修理委員会を設置し、修理方法の検討を行いながら進めている。</p>



【諸戸氏庭園・諸戸家住宅修理事業】

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	指定文化財件数	指定文化財の増加及び昇格件数	170	161	162	165	件
②	諸戸氏庭園保存修理進捗率	「諸戸氏庭園・諸戸家住宅」の保存整備工事の進捗率	90	15.1	21.6	30.9	%

指標の考え方

- ①文化財を次の世代に引き継ぐため、調査、保存に努めており、指定文化財件数を指標に設定した。
- ②平成 20 年度から平成 31 年度にかけて、文化財保存事業として諸戸家住宅・庭園の保存修理を行っており、諸戸家住宅の保存整備工事の進捗率を指標に設定した。

指標の分析

文化財の修理は、修理方法を慎重に検討しながら進めていく必要があるため、時間と費用がかかり、予定通りに進めることは難しい。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>文化財の調査を継続して行い、指定文化財の増加（現在 165 件：国指定・登録 21 件、県指定 32 件、市指定 112 件）や昇格を図っていく必要がある。</p> <p>文化財の修理は、慎重に行う必要があるため、時間と費用がかかる傾向がある。現在の状況は財政面、人材面ともに制限があり、行える事業はごく一部に限られているため、「保存・調査」が追いつかない状態にある。十分な事業を行うためには専門的かつ継続的に動ける人材の確保が必要となっている。</p>
今後の展開	<p>文化財の調査を行うとともに、これらを守るだけでなく、市民の方はもちろん多くの方に桑名市の魅力として知っていただくための機会を提供していく必要がある。</p> <p>文化財の価値を担保した修理を進めるために、国、県、所有者と連携を図りながら事業を進めていく必要がある。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

文化課

1 施策体系

項	個性豊かな文化の創造
単位施策	文化財
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の貴重な歴史遺産である文化財の保護を通じて地域の一体感が深まっています。 ・郷土の伝統や文化を大切にし、ふるさと桑名を愛する心が育まれています。 ・桑名に残る貴重な古文書類などの歴史資料が大切に保存されています。
基本事業	文化財の活用

2 施策の現状

施策の現状	<p>文化財の活用は地域を愛する心を育むため、大切に活用していくことを進めている。</p> <p>国指定重要文化財「六華苑」の活用及びPR事業として、平成8年から同苑の芝生広場を利用して教育委員会主催で、十六夜コンサートを開催している。</p> <p>「多度のイヌナシ自生地」の保全活動と花を見る会や「ヒメタイコウチ」の生き物観察会を、地域や県、植物・生物の専門家の方の協力を得て開催している。</p> <p>文化財の調査で得られた様々な情報・成果等を担当した文化課職員が学校の教室や現地におもむき、調査内容について出張講座を行っている。</p>
法令・制度の変更	
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>十六夜コンサートは、来場者から好評を得ており、重要文化財の活用と六華苑のPRにおいても重要な事業となっている。</p> <p>文化財の保存と活用のために、イヌナシ自生地保護活動委員会、ヒメタイコウチ保護活動委員会、桑名石取祭の祭車行事保存伝承委員会を開催した。</p> <p>文化課では遺跡（埋蔵文化財）の発掘調査や、市内に残る様々な文化財の調査を行っているが、文化財は地域で守られてきたかけがえのない歴史遺産で、地域の歴史・文化を学ぶことのできる素晴らしい教材であるため、「出張歴史講座」として文化財の調査で得られた様々な情報・成果等を、調査を担当した職員が学校の教室や現地に出張し、身近な地域の文化財についての授業等を行っている。</p>



【出張歴史講座】小学校現地学習（六華苑）



【多度のイヌナシ自生地の保全活動】

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	十六夜コンサート 入場者数	重要文化財「六華苑」十六夜コ ンサートの入場者数	400	320	434	368	人
②	生きもの観察会参 加者数	市天然記念物「ヒメタイコウ チ」の観察会への参加者数	60	112	95	64	人
③	イヌナシ自生地の 保全活動	国指定天然記念物「多度のイヌ ナシ自生地」保全活動参加者数	100	85	80	114	人
④	出張歴史講座受講 人数	出張歴史講座への受講人数	4,000	2,637	3,189	3,693	人

指標の考え方

- ①重要文化財「六華苑」の活用及びPR事業として、平成8年から開催している十六夜コンサートの入場者数を指標として設定した。
- ②③天然記念物のヒメタイコウチやイヌナシは地元の方と協力して保護施策を進めており、毎年開催している生きもの観察会等への参加者数を指標として設定した。

指標の分析

- ①十六夜コンサートについては、入場料を500円から1,000円に上げたことによる入場者数への影響はそれほど大きく出なかった。ただし、野外ということもあり天候に左右されるため、毎年入場者数にばらつきが出ているが、おおむね順調に推移している。

4 今後の方向性

課題の 整理	<p>多くの文化財がある魅力あるまちとして、たくさんの人から行ってみたいと思ってもらえるように、文化財の活用や公開をさらに進めていく必要がある。</p> <p>保護活動の中心となっている年齢層は高く、後継者を育てていくためにも、児童、生徒へのPRが大切だと思われる。</p> <p>天然記念物の活用は環境破壊につながらないように、人数を制限しながら行う必要がある。</p>
今後の 展開	<p>六華苑など貴重な市民の財産である文化財を活用して、桑名の魅力として情報発信していく施策を推進していく。</p> <p>また、小学校教科書副読本「わたしたちの桑名」に基づく現地見学や新規採用教員への事前研修等授業との結びつきを更に強め、身近な文化財としてふれあえる場を提供していきたい。</p> <p>文化財の保護と活用について、啓発活動を推進していく。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課	人権教育課
-------	-------

1 施策体系

項	人権が尊重されるまちづくりの推進
単位施策	人権・同和教育
施策が目指す将来の姿	・一人ひとりの児童生徒が、自分の大切さやほかの人の大切さを認めることができ、それが様々な状況で態度や行動に表れるようになっています。
基本事業	人権・同和教育内容の充実

2 施策の現状

施策の現状	市内中学校ブロック（9ブロック）において、同和教育を柱とした「人権尊重の学校づくり・地域づくり」を目指して、保護者や地域及び関係機関（PTA、各地域の人権啓発推進会、高等学校等）と連携・協働した学習活動を行っている。また、中学校ブロックの教職員は、積極的に人権の授業公開や、自分自身と「部落問題」との出会いやカリキュラム等の実践交流を通して、幼小中の連携を深めている。
法令・制度の変更	三重県人権教育基本方針（平成 21 年 2 月改定） 桑名市人権教育基本方針（平成 27 年 3 月策定予定）
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>人権感覚豊かな人づくりを地域社会の中で進めるために、保護者・地域の方々への啓発を意図した学習会・研修視察・講演会等、参画型活動の取組を行っている。</p> <p>事業実施にあたっては、多くの方が人権をより身近な問題として捉えられるよう、保護者や地域への積極的な働きかけや「中学校区人権教育推進協議会だより」を全戸配付したりするなど、自治会、人権啓発推進連絡会との連携を進めている。</p> <p>各学校における人権教育は、児童生徒の課題に基づく推進計画を立てて実践されており、人権に関する授業や行事の公開を、保護者だけでなく地域の方々やブロック内の他校教職員にも案内し、教職員の研修をより深めながら、子どもたちの差別解消への意欲と実践力の向上を図っている。</p>



「研修者はかりながら見聞を広げることで、人権意識を高める。」を目的に8月28日(水)に、京都市にある立命館国際平和ミュージアムと観音寺へ、総勢29名で研修視察に行きました。

立命館国際平和ミュージアム

人類は20世紀において、二度におよび世界大戦を経験し、幾千万もの命を失いました。しかし世界では戦争が今なお続き、多くの人々が生存の危機にさらされています。また、飢えや貧困、人権抑圧や環境破壊など人類が共同して解決すべき問題も、多様な形で浮上っています。立命館国際平和ミュージアムは、その中でも人権の重要性を伝える活動を行っています。



みなさん、「人権教育セットアッププラン」という事業を知ることには、おめでとうございます。今年度も年度ごとの取り組みを推進させていくため、心掛けた事業は、2002年から2004年にかけて、三重県教育委員会が人権啓発推進の中心になった事業ですが、2006年から桑名市教育委員会に引き継がれ、現在まで続いてきたものです。「人権教育も学校外にも広げて、子どもたちの暮らしや地域とともに学びあう」というこの事業は今日起で継続されてきました。その取り組みの具体的な内容については、各学校等に案内されています。それで、今年度も人権啓発推進協議会が主催で、先立、各学年、各家庭への配布、地域の協働に力を入れています。そして保護者のみなさま、地域のみなさまにも関心のご参加いただくことができました。ありがとうございます。そこで、今年度開始のセットアップで取り組んでいく内容について取りまとめて紹介します。

URANO/バンド人権コンサート ~陵成中学校にて~

【広報紙】

3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	話し合い活動実践数	人権啓発推進会等との話し合い活動を実践するブロック数	9	6	6	7	ブロック

指標の考え方

子どもの人権意識に影響するのは周囲の大人の意識であることから、意識変革の機会となる話し合い活動の実績を指標とした。

指標の分析

目標値には到達していないものの、話し合い活動は、人権意識の向上と意識改革の機会となり、校区の人権課題解決のために有効であると考えている。今後は、関係機関との連携を更に深めていくことが必要であると思われる。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>人権講演会や人権コンサート等への参加者は多数集まるものの、話し合い活動になると参加者数が減少してしまう傾向がある。</p> <p>子どもの人権意識に大きく影響するのは大人の意識、特に保護者の意識だが、積極的に人権について学ぼうとする方は限られていて、広がり課題がある。</p> <p>中学校ブロックとしての課題やねらいを明確にした全体計画が十分ではないため、前年踏襲の行事開催となりがちである。</p>
今後の展開	<p>話し合いに参加して良かったと思えるような内容や形式の工夫について推進協議会で十分協議し、保護者や地域の方々と人権問題について共に語り合い、学び合えるような学習活動にしていく。</p> <p>現状では学校が主体で運営している推進協議会を、保護者・地域が主体となり、地域の課題を明確にして積極的に運営していけるよう工夫していく。</p> <p>短期・長期のねらいを明確にした計画を立て、推進協議会で達成度の評価を行い、系統的・発展的に取組が継続できるようにしていく。</p>

平成 25 年度 施策評価シート

評価担当課

人権教育課

1 施策体系

項	人権が尊重されるまちづくりの推進
単位施策	人権・同和教育
施策が目指す将来の姿	・一人ひとりの児童生徒が、自分の大切さやほかの人の大切さを認めることができ、それが様々な状況で態度や行動に表れるようになっています。
基本事業	人権・同和教育推進体制の充実

2 施策の現状

施策の現状	<p>①これまでの同和教育の理念と成果をふまえた若手教員向けの研修講座として、「出会いから自分を見つめる研修」と「授業づくり研修」を実施し、人権教育推進の核となる人材を育成することにより、人権感覚あふれる学校づくりを進めている。</p> <p>②人権・同和教育推進の拠点である深谷教育集会所において、広く市民（小中学生と引率の保護者）に啓発を行い、人権問題に対する意識向上を図るため、平成 14 年度から「人権文化構築事業 kizuki」を実施している。人権文化の拠点である教育集会所に集うことで、人権について考えるだけでなく、教育集会所の設置や開催する各種講座の意義等を伝える機会にもなっている。また、事業の案内・募集は市内小中学校だけでなく、市広報や市ホームページにも載せて行い、本事業の意図を地域・市民に広く伝え、連携ができるように努めている。</p>
法令・制度の変更	三重県人権教育基本方針（平成 21 年 2 月改定）
施策に対するこれまでの取組・進捗状況	<p>①「出会いから自分を見つめる研修」では、校長推薦の 12 名の教員が受講し、「障害者問題」「在日韓国・朝鮮人問題」「部落問題」について講師との出会いから学びを深めた。「授業づくり研修」では、担当指導主事が校長推薦の 5 名の教員に個別指導を行い、児童生徒の背景も踏まえてとらえる視点を学ぶとともに、授業の実践交流を通して「なかまづくり」のより実践的な研修を深めた。</p> <p>②福祉体験講座（車椅子、点字、手話体験）、多文化共生講座（ミャンマー・カンボジア・韓国・ブラジル等の文化に学ぶ講座）を合わせて 12 回実施した。講座では、体験して気づいた学びを共有し、違いを豊かさを感じるとともに、自分の生き方につなげて考えることができた。毎回の講座にて教育集会所の設置意義や人権文化尊重の大切さも伝え、参加者の気づきが地域ネットワークとして築けるようにしている。</p>

【教育集会所人権文化構築事業 kizuki】

車椅子テニスで活躍されている方を講師に招いてお話を聞き、車椅子の押し方や移動の体験学習をしました。

2 日目は実際にお店での買い物体験をしました。

1 日目 平成 25 年 6 月 29 日 参加者 18 名

2 日目 平成 25 年 7 月 6 日 参加者 21 名



3 成果と分析

No.	指標名	指標の説明	H28 目標値	実績			単位
				H23	H24	H25	
①	講座受講者数	特別連続講座受講者数	14	14	12	17	人
②	講座受講者数	小・中学生及び、保護者等の 講座受講者数	240	305	207	201	人

指標の考え方

- ①教師自身の人権意識向上や子どもの見方を中心に、より実践的研修を積むことができる研修のため、受講者数を指標とした。
- ②講座受講が人権意識の向上につながるため、指標とした。開講した回数は、H23が14回、H24が13回、H25が12回となっている。

指標の分析

- ①受講者数は増加しているものの、人数が多すぎると個別指導に十分な時間が取れなくなることもあり、目標値は14人が適正であると思われる。丁寧な指導を心掛けたいと考えている。
- ②受講者数の増減はあるものの、人権文化の拠点である教育集会所に集うことで、人権について考えるだけでなく、教育集会所の設置や開催する各種講座の意義等を伝える機会にもなっている。

4 今後の方向性

課題の整理	<p>①若手教員及び経験の少ない教員が増加し、校内で推進リーダーとなる教員が減少している現状の中、この研修で得た力を活かして教育実践を積み上げ、受講者一人ひとりが核となって学校の人権・同和教育を推進していく状況となるようにする必要がある。</p> <p>②毎年楽しみにして申し込まれる受講者が増えていることもあり、講座がマンネリ化しないよう、内容の刷新や充実を図るとともに、日曜日や夏休み期間中の開催など、多様な参加者のニーズに応えられるような開催方法を検討する必要がある。</p>
今後の展開	<p>①子どもたちの人権感覚を育むためにも、前年度までの受講者が、校内の研修主任や推進委員、人権・同和教育の推進担当者となって各校の取組の中心的な役割を担うことができるよう、更なる研修の充実及び受講後のフォローや管理職との連携を行っていく。</p> <p>②市民の力でお互いの人権が尊重され、差別のないまちづくりを実現できるよう、教育集会所を核として、地域のネットワークを構築することで、市民の人権意識の高揚を図る。</p>

事務事業一覧

基本事業名(確かな学力の育成)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校一般教材・教具購入事業	49,334	児童1人あたり購入額【千円】	6.1	6.1	6.3
		市立小学校1校あたり購入額【千円】	1,795	1,815	1,827
小学校障害児介助事業	66,504	学習支援員1人あたりの特別支援対象児童数【人】	3.3	3.6	3.9
小学校図書館図書充実事業	9,769	小学校図書館図書数標準値達成校率【%】	100.0	100.0	100.0
		未達成校数【校】	0	0	0
小学校特別支援教育就学奨励事業	4,471	就学支援を受けた児童数【人】	153	150	151
		就学支援を受けた児童1人あたりの支援額【千円】	29	29	30
小学校特別支援学級用教材・教具購入事業	455	児童1人あたり購入額【千円】	4.5	2.2	1.9
		特別支援学級1学級あたり購入額【千円】	18	9	8
小学校理科教育振興備品購入事業	1,306	備品購入校数【校】	18	8	5
中学校一般教材・教具購入事業	26,254	生徒1人あたり購入額【千円】	6.4	6.3	6.3
		市立中学校1校あたり購入額【千円】	2,991	2,989	2,917
中学校障害児介助事業	28,106	学習支援員1人あたりの特別支援対象生徒数【人】	3.3	3.7	4.8
中学校図書館図書充実事業	4,636	中学校図書館図書数標準値達成校率【%】	100.0	100.0	88.0
		未達成校数【校】	0	0	1
中学校特別支援学級用教材・教具購入事業	369	生徒1人あたり購入額【千円】	7.7	8.3	4.1
		特別支援学級1学級あたり購入額【千円】	22	25	16
中学校特別支援教育就学奨励事業	1,902	就学支援を受けた生徒数【人】	35	42	47
		就学支援を受けた生徒1人あたりの支援額【千円】	38	40	40
中学校理科教育振興備品購入事業	964	備品購入校数【校】	3	3	3
「確かな学力」向上非常勤講師配置事業	27,125	講師配置学級の教師・講師1人あたり児童数(3～6年生)【人】	27	27	26
学力向上・生徒指導充実事業	23,529	講師1人あたり生徒数【人】	468	474	473
教育課程充実非常勤講師配置事業	-	配置学年の算数、国語、外国語活動の週あたりの授業数【限】	12	-	-
教職員研修事業	140	教職員等研修会への参加のべ人数【人】	126	134	135
児童生徒対策指導事業	5,415	進路・生徒指導等家庭訪問実施件数(中学校)【件】	2,138	2,050	2,198
		副読本等利用授業時間数(小学校・中学校1校あたりの合計)【時間】	224	240	240
教師用教科書・指導書等配布事業	1,594	教科書・指導書の充足数【充足数】	9,102	2,061	359
課題研究推進事業	1,500	研究成果発表校・園数【校・園】	4	6	3
学校図書館司書配置事業	4,287	学校図書館の図書貸出のべ冊数(環境整備のための司書派遣校平均)【冊】	3,433	6,555	1,979

事務事業一覧

基本事業名(確かな学力の育成)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
教育用コンピュータ整備事業	52,822	コンピュータ1台あたりの児童生徒数【人/台】	8.2	8.8	8.7
		小学校1校あたりの1週間での児童のコンピュータ活用時間【時間】	7.5	7.5	8.1
外国人児童生徒教育推進事業	5,780	指導・支援を受けた学校数【校】	21	20	21
		指導・支援を受けた外国人児童生徒数【人】	92	97	100
新教育課程推進対策事業	792	新教育課程がスムーズに実施・推進されている市立幼稚園・小中学校数【校・園】	59	59	59
学力・教師力向上推進事業	9,841	研修講座参加のべ人数【人】	1,536	1,622	1,766
		学級生活満足群に位置する生徒の割合【%】	—	—	61.1
学力・教師力向上推進事業(緊急雇用)	1,467	訪問学校のべ数【校】	—	—	132
特別支援教育推進事業	12,129	専門性を身に付け、巡回相談等を担当できる教員数【人】	3	4	4
		発達障害のある市内児童が通級指導教室へ通級する割合【%】	21.7	21.5	19.3
小学校3、4年社会科副読本改訂事業	0	社会科副読本利用授業時間数(3、4年生の年間総時数)【時間】	160	160	160
語学指導員事業	21,126	中学校1校あたりの年間訪問日数【日】	67	70	68
		幼稚園・小学校の1校(園)あたりの年間訪問日数【日】	3.1	2.4	2.2
国際化対応事業	1,689	日本語指導が必要な外国人児童・生徒に対する派遣日数充足率【%】	12.0	6.5	4.7
小学校英語活動推進事業	4,863	年間派遣のべ日数(1校あたり)【日】	25.6	24.0	22.6
合計	368,169				

事務事業一覧

基本事業名(豊かな心と健やかな体を育む教育)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
修学旅行等引率事業	699	引率経費負担率【%】	92.5	96.5	98.7
クラブ活動等推進事業	5,257	県、東海、全国大会等参加者数の全生徒に占める割合【%】	33.6	34.5	27.4
教育振興補助事業	272	補助対象事業計画目標達成数【回】	3	2	2
園児・児童・生徒健康診断事業	58,727	健康診断で精密検査を指示した児童生徒の人数の割合【%】	0.05	0.07	0.13
「心の教室相談員」配置事業	13,315	1校あたりの年間相談件数【件】	129	134	106
学校防災・防災教育推進事業	2,546	事業成果を反映した取組を行った学校数【校】	—	—	10
部活動エキスパート活用事業	1,332	上位大会への参加(上位入賞)率【%】	65.0	72.0	60.0
適応指導教室事業	7,461	・登校(部分登校を含む。)した児童生徒数 ・次年度進学・就職した通級児童生徒数【人】	12	18	21
教育相談事業	5,399	充足率(相談終了率)【%】	67.0	51.0	46.5
中学生職場体験事業	1,650	「職場体験活動が有意義であった」と回答した生徒の割合【%】	90.0	87.6	90.0
		「地域の中学校や中学生への関心が高まった」と回答した事業所の割合【%】	87.0	90.2	86.0
人事管理運営事業	40,668	定員充足率【%】	100.0	100.0	100.0
学校給食管理運営事業	231,590	小学校給食調理業務民間委託率(桑名地区)【%】	20.0	30.0	30.0
学校給食管理備品購入事業	9,252	無事故給食提供率【%】	100.0	100.0	100.0
学校給食室施設維持補修事業	6,384	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
学校保健一般管理事務	41,696	ケガ等処置完了・医療費補填件数【件】	2,884	2,736	2,700
学校保健管理備品事務	1,349	健康診断に必要な機器の充足率【%】	100.0	100.0	100.0
多度学校給食センター学校給食管理運営事業	64,225	無事故給食提供率【%】	100.0	100.0	100.0
多度学校給食センター管理備品購入事業	13,125	無事故給食提供率【%】	100.0	100.0	100.0
多度学校給食センター施設維持補修事業	1,604	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
長島学校給食センター学校給食管理運営事業	90,135	無事故給食提供率【%】	100.0	100.0	100.0
長島学校給食センター管理備品購入事業	842	無事故給食提供率【%】	100.0	100.0	100.0
長島学校給食センター施設維持補修事業	19,158	施設維持管理上の不具合件数【件】	12	7	3
合計	616,686				

事務事業一覧

基本事業名(開かれた特色ある学校づくり)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
小中学校総合連携推進事業	1,800	中学校1年生から新たに不登校となった生徒数(中学校1年生)【人】	6	14	7
「地域の学校づくり」推進事業	14,834	保護者・スクールサポーター・地域の方々の事業参加者数【人】	29,834	29,865	29,846
合計	16,634				

事務事業一覧

基本事業名(就学前教育の充実)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
乳幼児教育推進事業	854	研修講座・実践交流研修会・研修視察の回数【回】	6	7	7
		研修講座・実践交流研修会・研修視察の参加人数【人】	315	392	359
学校・園再編推進事業	443	各クラス20人以上の園児を確保している桑名市立幼稚園の割合【%】	41.7	37.5	29.2
学校・園再編推進事業(緊急雇用)	957	事務補助員数【人】	1	1	1
子ども・子育て支援事業計画策定事業	6,850	「子ども・子育て支援事業計画」策定までの進捗状況【%】	—	—	45.5
私立幼稚園就園奨励費補助事業	68,680	桑名市内から私立幼稚園に通っている園児のうち保育料減免園児数【人】	677	650	709
		園児1人あたり補助金額【千円】	89	87	96
幼稚園一般管理運営事務	13,600	予算執行率【%】	96.3	98.9	97.3
幼稚園管理備品購入事業	1,313	購入備品納入園数【園】	23	22	22
幼稚園教材・教具購入事業	9,977	園児1人あたり購入額【千円】	16.4	17	17
		市立幼稚園1園あたり購入額【千円】	487	495	453
幼稚園障害児介助事業	30,468	保育支援員1人あたりの障害園児数【人】	2.3	1.9	2.2
幼稚園人事管理運営費	18,477	幼稚園教諭充足率【%】	100.0	100.0	100.0
合計	151,619				

事務事業一覧

基本事業名(安全で快適な教育環境の整備)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校施設管理事業	209,069	保守点検検査実施率【%】	100.0	100.0	100.0
小学校施設維持補修事業	67,359	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
小学校トイレ改修事業	46,582	トイレ改修済校率【%】	50.0	53.5	57.1
小学校安全管理対策施設整備事業	83,575	門扉設置校率【%】	46.4	51.8	55.5
中学校施設管理事業	112,418	保守点検検査実施率【%】	100.0	100.0	100.0
中学校施設維持補修事業	36,218	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
中学校トイレ改修事業	56,810	トイレ改修済校率【%】	66.6	77.7	88.8
幼稚園施設管理事業	7,906	保守点検検査実施率【%】	100.0	100.0	100.0
幼稚園施設維持補修事業	7,272	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
校務用コンピュータ整備事業	18,780	校務用コンピューター配備率【%】	—	86.7	82.5
		個人情報の漏えい件数【件】	—	0	0
私立学校等補助事業	5,668	桑名市内から私立学校に通っている生徒数【人】	940	938	902
		桑名市内から私立幼稚園に通っている園児数【人】	1,135	1,138	1,141
小学校一般管理運営事務	46,215	予算執行率【%】	94.8	94.4	93.5
小学校管理備品購入事業	10,935	備品納入校数【校】	28	27	27
小学校人事管理運営費	24,434	臨時用務員化率【%】	33.0	41.0	48.0
小学校要保護、準要保護就学援助事業	37,537	就学援助を受けた児童数【人】	617	605	590
		就学援助を受けた児童1人あたり援助額【千円】	63	63	64
中学校一般管理運営事務	18,505	予算執行率【%】	91.3	99	96.3
中学校管理備品購入事業	6,856	備品納入校数【校】	9	9	9
中学校人事管理運営費	7,326	臨時用務員化率【%】	44.0	56.0	44.0
中学校要保護、準要保護就学援助事業	32,642	就学援助を受けた生徒数【人】	382	403	411
		就学援助を受けた生徒1人あたり援助額【千円】	76	78	79
高等学校進学奨励事業	3,446	進学奨励金受給者数【人】	159	120	99
スクールバス運行事業(星見ヶ丘地区園児・多度幼稚園児)	8,314	バス利用率【%】	94.4	95.4	98.9
スクールバス運行事業(多度青葉小)	4,657	バス利用率【%】	97.1	100.0	97.1
園児・児童・生徒安全対策事業	865	登下校(園)時の交通事故発生件数【件】	29	27	22
合計	853,389				

事務事業一覧

基本事業名(青少年の社会参加・体験活動の促進)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
ジュニアリーダー育成事業	436	ジュニアリーダー登録者総数【人】	23	27	25
子ども体験活動促進事業	1,800	体験教室・活動参加者数【人】	50	52	60
合計	2,236				

事務事業一覧

基本事業名(青少年育成活動の充実)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
青少年教育指導事業	1,187	参加者数【人】	26,105	29,551	26,499
青少年育成推進指導員活動事業	181	情報交換研修会等の参加者数【人】	60	33	37
青少年育成研修事業	311	研修会参加者数【人】	149	42	96
子ども会育成事業	2,044	子ども会活動年間のべ参加者数【人】	565	440	471
		子ども会加入率【%】	14.0	10.0	9.0
青少年育成市民会議運営事務	4,598	市民会議主催事業への市民参加者数【人】	20,000	20,100	20,200
青少年団体等補助事業	114	ボーイスカウト・ガールスカウトの登録者数【人】	70	112	100
		青年の船参加者数【人】	12	8	10
和く輪くウイークエンド事業	2,213	事業参加のべ人数【人】	3,336	3,598	3,817
青少年国際交流事業	1,000	助成件数【件】	5	5	5
放課後子ども教室開設事業	9,896	参加のべ児童数(1校平均)【人】	2,078	2,505	2,422
		参加スタッフ数(1校平均)【人】	387	518	531
合計	21,544				

事務事業一覧

基本事業名(青少年の非行防止・保護体制の充実)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
青少年補導運営協議会運営事業	25	運営協議会で意見があった案件率【%】	100.0	100.0	100.0
青少年安全対策事業	250	子どもSOS設置件数【件】	2,561	2,551	2,553
青少年補導活動事業	2,716	年間のべ街頭補導人数【人】	640	200	250
		年間のべ青少年相談件数【件】	10	14	8
合計	2,991				

事務事業一覧

基本事業名(生涯学習推進体制の整備)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
社会教育委員会運営事務	572	委員会で意見があった案件率【%】	100.0	100.0	100.0
成人式行事開催事業	1,803	出席者数【人】	1,142	1,215	1,173
		出席率【%】	76.7	81.5	80.0
生涯学習推進事業	3,357	市民モニタリングによる指摘事項改善率【%】	100.0	100.0	100.0
婦人会連絡協議会活動事業	500	婦人会活動参加者数【人】	585	698	659
PTA連合会活動事業	941	市PTA連合会活動参加者数【人】	2,550	1,802	1,500
公民館運営審議会運営事務	138	運営審議会での意見があった案件数【件】	7	8	7
公民館社会教育指導員活動事業	3,187	公民館講座受講者数(くわな市民大学を含む。) (城東公民館を除く。【人】	30,592	31,401	31,461
公民館一般管理運営事業	36,332	施設利用者数(城東公民館を除く。【人】	245,515	244,490	242,894
公民館講座開設事業	15,238	公民館講座受講者数(城東公民館を除く。) 【人】	27,904	28,199	27,904
		くわな市民大学受講者数【人】	2,688	3,202	3,557
図書館協議会運営事務	451	意見の提言数【件】	20	32	35
		審査対象の図書冊数【冊】	270	414	419
図書館一般管理運営事業	44,913	3館(中央・長島・多度)の年間のべ貸出冊数【冊】	1,275,597	1,230,340	1,214,244
		年間のべ来館者数【人】	961,079	928,365	890,128
図書資料補修事業(緊急雇用)	6,393	修理完了による利用可能冊数【冊】	2,900	1,578	2,506
		廃棄図書、補修図書冊数【冊】	2,600	4,500	5,300
図書充実事業	14,575	ふるさと多度文学館蔵書数【冊】	106,582	107,339	111,936
		長島輪中図書館蔵書数【冊】	96,183	99,867	103,401
地域映像情報活用事業	692	総合学習を受けた年間授業生徒数【人】	483	525	620
長島ふれあい学習館教室開設事業	4,163	教室申込者数【人】	871	767	699
		プラネタリウム観覧者数【人】	3,947	2,824	2,571
合計	133,255				

事務事業一覧

基本事業名(スポーツ活動の充実)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
スポーツ推進委員活動事業	2,953	ニュースポーツ教室等参加者数【人】	7,213	8,825	8,837
スポーツ推進審議会運営事務	42	審議会審議案件数【件】	2	2	1
スポーツ大会等運営事業	6,962	スポーツ大会参加者数【人】	6,952	6,957	6,379
リバーサイドマラソン大会運営事業	2,000	参加者数【人】	3,694	4,260	4,202
高齢者スポーツ普及活動事業	210	高齢者スポーツ教室の参加者数【人】	214	243	198
大運動会運営事業	7,851	多度参加者数【人】	5,784	6,139	6,386
		長島参加者数【人】	6,808	6,212	6,694
美し国三重市町対抗駅伝大会参加事業	824	選手選考会参加者数【人】	49	53	25
合計	20,842				

事務事業一覧

基本事業名(スポーツ組織の育成と充実)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
体育協会運営事業費	10,033	桑名市体育協会加盟団体の構成員数【人】	15,478	15,211	15,103
スポーツ少年団育成事業	7,811	スポーツ少年団員数【人】	1,613	1,531	1,489
みえスポーツフェスティバル参加補助事業	552	みえスポーツフェスティバル参加者数【人】	413	481	313
総合型地域スポーツクラブ育成事業	2,014	総合型地域スポーツクラブ数(設立数)【箇所】	2	2	2
合計	20,410				

事務事業一覧

基本事業名(文化・芸術活動の推進)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
市民展事業	3,572	出品数【件】	239	263	259
市民芸術文化祭事業	3,000	市民芸術文化祭来場者数【人】	7,901	7,095	7,178
子ども文化祭事業	2,000	子ども文化祭来場者数【人】	5,146	3,965	3,966
文化団体補助事業	1,500	来場者数【人】	7,963	3,058	6,461
合計	10,072				

事務事業一覧

基本事業名(文化財の調査・保存)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
文化財保護審議会運営事務	368	審議案件【件】	0	2	2
文化財保存事業	15,693	文化財の指定件数【件】	2	1	3
埋蔵文化財発掘調査事業	7,467	発掘調査完了率【%】	87.0	93.0	76.0
埋蔵文化財整理所施設管理運営事業	2,009	埋蔵文化財発掘調査によって得られた諸資料調査報告件数【件】	85	50	30
合計	25,537				

事務事業一覧

基本事業名(文化財の活用)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
文化財保護普及事業	13,849	イベント参加者数【人】	925	950	902
文化財総合データ管理システム事業	3,254	HPアクセス数【件】	416,848	478,547	409,892
六華苑施設管理運営代行業務委託事業	30,559	来館者数【人】	46,719	46,191	49,582
博物館資料保存事業	2,509	修繕完了率【%】	70.0	93.3	100.0
合計	50,171				

事務事業一覧

基本事業名(人権・同和教育内容の充実)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
人権・同和教育推進事業	1,000	研究大会・研究会・研修会の開催運営回数【回】	75	79	80
		研究大会・研究会・研修会の参加人数【人】	924	907	926
人権・同和教育指導体制充実事業	4,006	「あゆみ」(同和教育副読本)の活用数【%】	100.0	100.0	100.0
		人権フォーラム前後校内での話し合いを実施した小・中学校数の割合【%】	100.0	100.0	100.0
同和教育副読本「あゆみ」編集配付事業	441	授業で活用された学校数【校】	36	36	36
		人権・同和教育副読本「あゆみ」を活用した割合【%】	100.0	100.0	100.0
人権・同和教育研究大会等参加事業	139	参加人数(事務局分)【人】	9	6	9
合計	5,586				

事務事業一覧

基本事業名(人権・同和教育推進体制の充実)

事務事業名	平成25年度 決算額 (千円)	成果指標名【単位】	実績		
			平成23年度	平成24年度	平成25年度
人権・同和教育啓発推進事業	1,024	人権に関する作文、ポスター、標語の応募数【件】	6,252	6,547	7,371
人権・同和教育学習活動推進事業	2,430	保護者や地域の人を含めた話合いの実施回数【回】	6	6	7
		人権団体等の連携により講座等の活動をしている中学校ブロックの割合【%】	100.0	85.7	100.0
教育集会所運営委員会運営事務	180	委員会で意見があった案件数【%】	100.0	100.0	100.0
教育集会所施設管理運営事業	6,140	施設(教室)利用者数【人】	10,832	11,347	11,429
教育集会所施設維持補修事業	1,287	施設維持管理上の不具合件数【件】	0	0	0
教育集会所人権学習事業	6,399	小中高校生教室参加者数【人】	5,804	8,589	8,642
		一般市民対象・一般教養講座参加者数【人】	2,121	2,758	1,988
教育集会所人権啓発活動事業	2,323	啓発物品配布率【%】	100.0	100.0	100.0
		人権・同和問題学習会(長島)参加者数【人】	86	87	93
市民人権生活福祉講座事業	209	講座受講者数【人】	305	207	201
合計	19,992				

(1) 総括意見

平成25年度の桑名市教育委員会の権限に属する教育行政事務の点検評価報告書とその具体的説明に基づきながら概括的な意見を提示する。

1 教育委員会としての取組は、桑名市総合計画が目指す重要部門「こころ豊かな文化の薫るまちづくり—豊かな人間性を育む人づくり・生涯学習を通しての自己実現・個性豊かな文化の創造・人権が尊重されるまちづくりの推進—」の実現に向け、知・徳・体のバランスをよく考慮し、精力的で柔軟な取組がなされていると判断する。

年度ごとの点検・評価結果が次年度の計画に反映され改善されているとともに、5か年計画に基づき着実に成果を挙げられていることに対し、高く評価し、深謝申し上げたい。

2 今年度の報告書はこれまでと異なり、「施策評価シート」という形で、目標・現状・成果と分析・将来の方向性が整理された上、必要に応じて図表や写真が掲載されたことは目新しい。市民に対して分かりやすい説明責任を果たされていることも今年度の特徴と言える。

3 各事業における目標値が設定され、ほぼ達成されていることはよく理解できる。一方で今後、目標値の設定の客観的根拠や出された数値についての解釈の説明が加われば、より分かりやすくなる。目標値や進捗率は到達度と今後の方向性を導き出す上で重要な視点であるが、事業によっては必ずしも一定ではないと思う。教育効果というものは短期間では明らかにされにくい側面もあるため、全てが数値で判断できるものではないことを指摘しておきたい。

4 教育の原点は家庭にあると言われるが、学校や地域の教育力が不可欠であることも言うまでもない。そのため教育委員会として、各施策を積極的に推進するため、学校評議員・地域・各関係機関との連携を図りながら成果をあげていることは数値にもよく表れている。このことは、教育委員会の精力的な努力により、レイマンコントロール（市民の意向やニーズを反映すること）が機能していることの証左でもあり、将来の子どもの育成やまちづくりの主要な構造部として捉えることができる。

5 教員の生活リズムにおいて多忙化が進んでおり、その多忙感の解消にも配慮しなければならない現況化において、子どもの育成や地域社会の形成に多大なるご尽力をいただいていることに重ねて敬意を表する次第である。今後も市民の郷土愛や誇りを醸成していただくために、更に熱意ある事業展開を祈念している。

以上、桑名市教育委員会の事務執行状況の点検・評価報告書について概括的な意見を述べた。引き続き、項目ごとに若干の点について言及する。今後、何らかの形で多少でも参考にされることを期待する。

(2) 個別の意見

I 豊かな人間性を育む人づくり

1 学校教育

(1) 確かな学力の育成

○「わかる授業」の指標として、算数・数学を調査の眼目とされた点は頷ける。全国との比較においても高い数値結果が出ていることは望ましい。特に、算数・数学という教科は計算問題を中心とした反復練習や遅れがちな子どもたちへの補充的な取組も要求される。今後は加配教員によ

る少人数教育の成果とともに高い数値を得た過程の分析や中学校の授業において、実生活における事象との関連を図った授業がどのような形で展開されているかについて、記載した方が事業の進展がより理解しやすくなるものとする。

- 教科指導を支える学級づくりに注目され、6月と11月に学級満足度調査が行われている。満足群に位置する児童生徒の割合が全国値に比べ高いばかりか、別表が示すように1回目より2回目の方が高く表れている。前進した要因や法則性を明らかにし、今後の指導に活用されることを望みたい。子どもたちの学力の育成にとって、教師の授業力が問われることは言うまでもない。教師の教育力向上と人材育成については、今後も多面的な取組が展開されることを切望する。今年、小中学校の学習指導要領改訂から3年目を迎えることになる。新たな観点での指導内容や指導法について研鑽が積み重ねられていることと推測されるが、改訂前との特徴的な違いの比較があれば取組に対する理解も得られやすいものとする。
- 夏期教職員研修講座への参加者は例年とほぼ変わらない。教員が年々多忙化していることを鑑みると、目標値に対する実績の評価について難しい側面がある。特別支援教育については、個々への対応も様々で複雑な要素が内包されている。それだけに、実践・経験が要求される中堅・若手教員の継続的研修と当該子どもの特性に応じた指導の工夫等研鑽を積むことは避けられないだろう。「くわな特別支援学校」との連携を今後も継続していくことは大変意義深いと思う。

(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育

- 桑名市独自にて認定臨床心理カウンセラーや認定臨床心理療法士による相談枠が設けられたことと相談時間の設定とが相まって充実度が増してきているように感じられる。
- 桑名市における不登校児童生徒の人数は、毎年100名前後で推移しているとの報告がある。事例別・年齢別・性別等々の分析を加えるとともに、改善された事案の検証により一定のデータ化を行い、今後の対策として共有化できないものか、同時に、総括意見でも述べたが、「心の教室相談員の活用」で示す指標・目標値は、事業そのものが目標等を示して取り組むことが適切であるかどうか検討の余地があるものとする。
- 食育教育については、栄養教諭や教頭のみならず多くの保護者が関心を示す領域であり、この事業も組織的・計画的に推進されるものであると思う。食育研修講座に教員の参加に加え、保護者や地域の協力者などの参画も今後の検討課題としていただきたい。

(3) 開かれた特色ある学校づくり

- 実績が示すとおり、スクールサポーターの登録人数がコンスタントに得られていることは実に望ましい。活動の必要性が理解され、適切な活動内容と成果が実感できているからだと思われる。地域社会には優れた人材があり、この事業への協力者を増やす努力をする一方で、「地域社会全体で子どもを育てる」という機運を高めるための積極的なPR活動を願いたい。
- 文字どおり、「開かれた特色ある学校づくり」を展開しようとするならば、第三者的立場からの意見に耳を傾けなければならない。実績を見る限り、年間3回の割合で評議委員会が開催されているようである。季節や行事の関係で話合われる内容は異なるものと考えられるが、関係者か

らの主な意見も記載していただくと、より分かりやすいものになるであろう。

(4) 就学前教育の充実

- 勤務形態が異なったり、多忙化する状況下にもかかわらず、研修会等への参加努力は評価できる。今後は、幼保小との関係も視野に入れた取組を期待したい。
- 就学前施設の適正配置は、遡れば、平成 19 年 4 月の「桑名市就学前教育検討委員会」から出された 6 項目の提言の 1 つである。

この適正配置について、平成 22 年より「桑名市就学前施設再編検討委員会」にて協議が重ねられ、平成 24 年には、「桑名市就学前施設の再編に関する答申」が出された。

この答申を基に、今年度、「就学前施設再編実施計画」が策定された。長い期間を経て、一定の方向性が出されたと判断できる。

(5) 安全で快適な教育現場の整備

- 「安全・安心なまちづくり」は桑名市総合計画の骨格を成す重要な柱である点から、全ての園・小中学校における躯体の耐震補強工事が既に平成 24 年度で完了されたことは実に望ましい。
- 地震・津波対策をはじめとし、老朽化した設備の修繕など複雑・多岐にわたる事業であるだけに一律的な指標の表し方や目標設定について苦慮されることと思う。

園や学校に子どもが在籍している保護者は、上記の計画や進捗状況について知らされていると思う。一般市民への広報として考える場合、達成率がもう少し分かりやすくなるよう一考されることを希望する。

2 青少年健全育成

(1) 青少年育成活動の充実

- ジュニアリーダー研修会への参加や登録者が減少傾向にあることはやや寂しい感がある。また、子ども会への加盟率も極めて少ないのが現状である。全国調査結果による「地域の行事に参加していますか」の項では、小学生が約 60%、中学生で約 40%が「参加している」と回答し、異年齢交流も年々増えている。このことから見れば、桑名市も例外ではなく、何らかの形で地域の活動に参加しているものと思われるが、地域との関わりは、子どもの成長にとって大いに意義があるという観点に立ち、今後も粘り強く追求すべき課題である。

(2) 青少年の非行防止・保護体制の充実

- 近年、想像を絶するような事件が多発している。青少年保護の観点から担当者による巡回活動に加え、環境整備の見直しや地域の積極的な協力体制を強化していただきたい。
- 年間の街頭補導人数が図表化されているが、その数値からは事案の内訳が見えてこない。担当部署では細部にわたり分析されているものと思うが、分析結果により未然に防止できる事案もあれば、さらに強化しなければならない事案もあると考えられる。

補導回数も大切な指標であるが、非行や愚行によって補導される子どもの数が減少していくことに力点をおいた取組を期待したい。

Ⅱ 生涯学習を通しての自己実現

1 生涯学習

○ 公民館を活用した講座受講者数は、図表・実績値が示すとおり、毎年目標値をほぼ達成している。このことから、講座内容が趣味・教養にとどまらず、現代的課題や市民の関心や期待に応えたものになっていると判断できる。今後も市民のニーズを的確に把握し、タイムリーな講座提供がなされることを希望する。

○ 全国学校調査で、1か月に1冊も本を読まない小学生が11.4%、中学生で26.5%となっている。子どもたちの生活も多忙になっているのか、特に中学生になるとクラブ活動のためか読書傾向は下降気味である。

桑名市においては、3つの図書館の貸出冊数実績値が120万冊を上回っている。この数値は人口10万人～15万人規模の都市の中で全国ランキング10位以内というすばらしい実績であることをまず強調しておきたい。今後も子どもたちが関心を抱くような書物の選定に加え、学校教育との連携でこれまでの実績を維持していただきたい。

2 生涯スポーツ

○ 生涯を楽しく過ごすためには、その基盤となる健康や体力を除いて論ずることはできない。総合型スポーツクラブは、健康増進のためだけでなく、住民同士、親睦を深めながら、明るく健全な共同社会を形成するための活動の場である。「いつでも、どこでも、だれでも」という標語を用いた広報活動ができそうである。

○ 実績数値を見る限り、掲げた目標はほぼ達成されていると読み取れる。課題とされている施設設備の問題を解決するためには時間を要するだろう。また、リーダーシップのとれる人材の確保についても要求される課題となるであろう。

Ⅲ 個性豊かな文化の創造

1 文化・芸術

○ 市民芸術文化祭・市民展・子ども文化祭、いずれも企画力とPR活動が問われる事業であるが、例年、目標値に近い実績値が示されている点からみると、安定した取組がなされていると言える。

○ いずれの事業も文化・芸術活動に勤しむ側とそれを鑑賞する側との両者が相まって文化・芸術は創造されるという観点から、来場者数や出展数が指標となっていることは頷ける。

○ 桑名市総合計画の根幹をなす「こころ豊かな文化の薫るまちづくり」を目指しながら市民が一体となって活躍されていると判断できる。桑名市には古い歴史・伝統・文化がある。それらを継承しながら新しい文化を創造し、郷土の文化・芸術を誇れるまちづくりに精進していただきたい。

2 文化財

(1) 文化財の調査・保存

- 桑名市には、桑名城下町遺跡をはじめとした貴重な歴史遺産がある。後世に継承する使命感のもと、土地開発との兼ね合いを考慮され計画的に事業が進められている。
- 長期計画に基づく国の補助事業としての諸戸家住宅と諸戸氏庭園の整備事業も、着工から6年を経過したことになる。限られた予算の中での整備工事の難しさがあるものと思う。
- 全国各地の様子をみても、文化に対する予算措置は多くない。先人の積み上げた貴重な文化を将来にわたって伝承していく意識の問題と関係がありそうだ。国からの更なる補助的支援を望みたい。

(2) 文化財の活用

- 十六夜コンサートの入場者数が経年的に示されているが、催し物の内容と深い関わりがあると思う。市民には「一流」に触れたいという願いがあると想定しながら、事業計画を立案されたい。
- 「生きもの観察会」への参加者は毎年目標値を大きく上回っている。自然環境が薄れていく中で、小中学生が数多く自然体験できることは極めて教育的で意義深い。
- 郷土の歴史遺産を活用した「出張歴史講座」は興味深い。郷土の歴史や文化を享受することは、郷土愛を育むことになり、今後も精力的に事業展開していただきたい。

IV 人権が尊重されるまちづくりの推進

1 人権・同和教育

(1) 人権・同和教育内容の充実

- 今後の方向性で示されているように、子どもの人権意識は大人の影響を受けることが少なからずある。そういった脈絡から、地域や保護者層の拡大に尽力されるとともに、具体的事案に基づきながら意識変革の道筋についても検討を加えていただけるとありがたい。
- 「中学校区だより」が発行され、子どもたちの実生活の中にみられる事象を教材とし、個の大切さや人間の尊厳について学ぶ機会を増やしていただいていることがよく分かる。今後も、広く深く継続的な学習を心がけていただくようお願いしたい。

(2) 人権・同和教育推進体制の充実

- 若手教員及び経験の少ない教員が増加する中で、研修会や実践指導は急を要する事業である。このことと指標との関係について分かりやすい説明があると良いと思う。
- 過年度受講者が各校で研修主任や推進委員担当者として活動されていることは、より実践的で認識をさらに深化させることにもつながり、望ましい姿である。
- 教育集会所へ出向き、保護者や地域の人たちと交流することは大変意義深く、学ぶことも多くあると思う。